

東京都新しい公共支援事業 コミュニティカフェ開設支援事業報告書

協議体チーム中野

1. 地域の課題

中野区は人口密度が全国トップクラスで、20～30歳代を中心とした単身者率が約60%と高く、子どもの割合は低い。人口の流動性が高く、人々の交流の機会が少ないため、子どもから高齢者までの多世代が出会い、情報交流できるコミュニティカフェを積極的に増やすことが求められている。

公益社団法人長寿社会文化協会（WAC）がまとめている常設型のコミュニティカフェのリストによれば、中野区は隣接区と比較してコミュニティカフェが少なく、人口規模が同じ区よりも格段と少ない。

区	人口（人。2013年1月1日現在）	面積（km ² ）	コミュニティカフェの数
中野	<u>311,256</u>	<u>15.59</u>	5
新宿	<u>321,172</u>	<u>18.23</u>	15
豊島	<u>268,959</u>	<u>13.01</u>	9
渋谷	212,061	<u>15.11</u>	14
杉並	540,021	34.02	6
練馬	709,262	48.16	12

この理由として、コミュニティカフェを開きたくても、方法がわからない、場所がない、担い手がいない（足りない）等の課題を抱えたNPOや地域団体等が多いと考えられる。

2. モデル事業の概要

本事業は、コミュニティカフェを開設したいが、内容や資金手当て、スタッフなど開設への不安を抱えるNPO等に対して、コミュニティカフェの開き方や成功事例の研究会、カフェの現地視察、カフェの運営体験などを通してノウハウを伝え、起業プランニングを作ってもらうことで開設に結び付けることを目指したものである。

具体的には、以下の3項目をメインに行った。

（1）コミュニティカフェ開設講座の開催

コミュニティカフェ概論、つくり方の講義、実践例見学、体験実習、インターネット活用、起業プラン作成など。期ごとに内容にバリエーションを持たせ、応募状況によっては、複数期の受講も認めた。

（2）コミュニティカフェ研究会の開催

軌道に乗っているコミュニティカフェ主宰者を呼んで、事例研究と成功モデルの

検証を行う。主宰者が「成功の秘訣」「失敗体験」などを話し、来場者の質問に丁寧に答え、活発な議論を交わす。

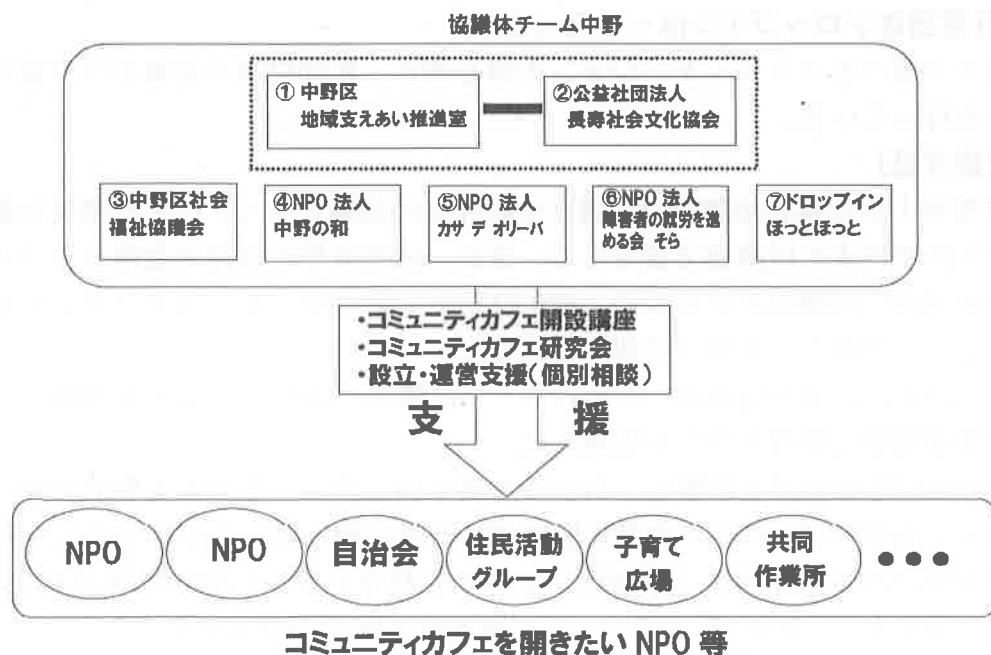
(3) 設立・運営支援（個別相談）

開設講座や研究会の参加者などの質問・相談に事務局が応じる。専門的な相談の場合は、相談内容に沿ったコミュニティカフェ主宰者らに橋渡しし、設立・運営のための支援をしていく。

3. マルチステークホルダーの概要

コミュニティカフェを開きたいと考えている NPO 等に対して、長寿社会文化協会（WAC）が中野区の NPO 担当室と中野区社会福祉協議会、それに既にコミュニティカフェを運営している NPO 等と連携して、講座や研究会、見学会、個別の相談などを行い、コミュニティカフェの開設を支援する。

WAC は、中野区本町 4 丁目にある子育て世帯、単身高齢者向け賃貸マンション「ウエルカーサ新中野」の 1 階多目的スペースの運営を、財団法人首都圏不燃建築公社から 2011 年に受託した。この多目的スペースを講座、実習の場所に活用していくことも兼ねて、中野区内団体と協働を図ったものである（2012 年 7 月に受託契約が解除され、多目的スペースの活用が不可能になったため、会場は区公共施設に切り替えた）。



① 中野区地域支えあい推進室地域活動推進担当

中野区の地域活動やNPO等担当部署

② 公益社団法人長寿社会文化協会(WAC)

約10年前からシンポジウム、研究会、交流会等の開催、相談対応などを通じて、コミュニティカフェの開設・運営を支援している。書籍・冊子の発行や会員誌での特集、ブログ、メールマガジン、新聞テレビなどマスコミへの取材対応などで、「コミュニティカフェ」という名称を一般化させた。全国のコミュニティカフェの情報交流組織、「コミュニティカフェ全国連絡会」を2009年に設立した。

③ 社会福祉法人中野区社会福祉協議会・中野ボランティアセンター

地域交流拠点として、中野区内の「まちなかサロン」20カ所に対して、助成金を出すなど立ち上げ・運営の支援をしている。

④ NPO法人中野の和

⑦運営する傍ら、まちなかサロン「薬師のみちくさ」も手掛けている。

⑤ NPO法人カサ デ オリーバ

障害者就労継続支援B型作業所のほか、愛犬を連れて寄れるドッグ・カフェを運営している。

⑥ NPO法人障害者の就労を進める会そら

障害者の就労を支援するコミュニティレストラン「キッチンそら」で、無農薬、有機野菜を使った酵素玄米ご飯などを提供している。

⑦ 任意団体ドロップインほっとほっと

親子で遊べるコミュニケーションの場を開き、乳幼児親子対象の「子育て支援講座」も行っている。

【役割分担】

中野区と社会福祉協議会は、講座や研究会の会場として、自らの施設を備品などとともに無料または廉価で貸与した。また、区役所や社会福祉会館（スマイルなかの）使用時には職員が立ち会い、NPO設立セミナーや「まちなかサロン」の助成の案内など、受講生に有益な情報を提供した。

また両者は区報や情報誌、ホームページに講座や研究会の案内を掲載するとともに、関連施設に案内チラシを配架した。

中野区は広報担当と調整し、お知らせ掲示板にチラシを貼れる便宜を図った。協議体チーム中野は、お知らせ掲示板全360カ所に唯一貼れる団体として中野区から紹介を受けた公益社団法人中野区シルバー人材センターに貼付・除去を依頼した。

「中野の和」「カサ デ オリーバ」「障害者の就労を進める会そら」「ドロップインほっとほっと」のNPO等4団体は、講座や研究会など行事の運営に協力するとと

もに、講座では自らのコミュニティカフェの事例を講義した。また、区内にあるネットワークを活用して、受講生・参加者募集に協力した。

4. 実施事業の詳細な内容

(冊子「コミュニティカフェ開設支援事業——『協議体チーム中野』の活動」、WAC情報誌「ふれあいねっと」262号(2012年11月発行)記事参照)

(1) コミュニティカフェ開設講座

①説明会(チラシ参照)

当初、事務局や講師で講座カリキュラムを組み立てた後、受講生を募集し、開講する予定であったが、協議体の第2回会議(2012年6月5日)で、「コミュニティカフェがどんなところかわからない人も多い」という声が出て、一般市民を対象に説明会を行った(研究会1回分から振り替え)。

日時:7月28日(土)14:00~16:00

場所:中野区役所7階会議室

内容:

第1部:講演「コミュニティカフェを始めませんか」(評論家・神奈川大学講師の久田邦明氏)

第2部:中野区内外のコミュニティカフェ事例紹介

第3部:コミュニティカフェ開設講座説明(講師、事務局)

宣伝:チラシを作成し、中野区施設85カ所、周辺区市のコミュニティカフェ、市民活動センター等100カ所で配布、中野区お知らせ掲示板360カ所に貼り出し。インターネットは、中野区ホームページ、WACのホームページ、WACの全国コミュニティカフェ・ネットワークのブログとメールマガジンなどのほか、「協議体チーム中野」のFacebookページも立ち上げ、活用した。以後、講座受講生や研究会参加者の募集で、同様の宣伝方法をとった。

結果:中野区内を中心に約140人が集まり、開設講座を「ぜひ」「時間が合えば」受講したいという人が半数近くにも上り、説明会の目的は達した(アンケート集計結果参照)。

②第1期(チラシ、カリキュラム参照)

日時:10月2日(火)~12月11日(火)の平日は19:00~21:30、土曜午後に見学会3回。全12回

場所：中野区役所会議室、スマイルなかの会議室、なかの ZERO 学習室、コミュニティカフェ見学先

講師：工藤秀美氏（市民シンクタンク株式会社ひとアンドまち研究所代表、まちづくりアドバイザー）

受講生：

48 人の応募者の中から、受講動機やカフェ開設プランなどで書類選考し、20 人を選んだ。中野区民 13 人、其他都民 7 人。女性 13 人、男性 7 人。最も若い 25 歳の男性から最年長の 67 歳の女性まで年齢には幅があったが、男女とも 60 歳前後が多い。職業は、一級建築士、社会保険労務士、保育士、学童指導員、介護施設職員、生命保険会社営業、NPO 理事、地方公務員など多様だった。平日夜間が多い日程から、既婚者でも子どもがいない人や、いても独立している人が多かった。

NPO 法人に所属し、既にコミュニティカフェを開いているが、運営方法を学び直したいという者も 2 人いた。

主な内容：

まちの中にどんな課題があるかを考えさせ、その課題解決の場としてコミュニティカフェが有効という視点に立ち、受講生は 4 つのグループに分かれて、事業計画と運営プログラムづくりに励んだ。「共通の目的を持つ仲間の次に、商店街、町会、社協などを巻き込んで、プランを具体化させよう」（工藤さん）。1 期生は中野区内居住者が多く、また他の期より 1 回の時間は短くても回数が多かったため、受講生同士が親しくなり、1 期生から 8 人が「なかのコミュニティ研究会 てたて」を結成した。

③第 2 期（チラシ、カリキュラム参照）

日時：11 月 23 日（金祝）～2 月 16 日（土）の 10：00～16：00、全 6 回

場所：中野区役所会議室、なかの ZERO 学習室、コミュニティカフェ見学先

主任講師：山根眞知子氏（NPO 法人 NPO 事業サポートセンター理事、書籍「コミュニティ・カフェをつくろう！」の著者の一人）

講師：金順玉氏（中小企業診断士、消費生活アドバイザー。第 5 回、第 6 回担当）
丸山伊太郎氏・中村信子氏（2 人は中野のコミュニティカフェ「エカイエ」の共同オーナー。第 4 回担当）

中川弥生子氏（NPO 法人障害者の就労を進める会そら理事長。第 1 回担当）

受講生：

28 人応募、1 期で途中数人の脱落があったため、予定の 20 人より多い 23 人に受講を認めた。うち 4 人は 1 期の受講生。

中野区民 12 人、その他 11 人。女性 13 人、男性 10 人。2 期も、最も若い 24 歳の女性から最年長の 64 歳の男女まで年齢には幅があったが、土曜日の昼間に開講したため、子どもを配偶者に預けての 30~40 歳代が多かった。既にコミュニティカフェの運営に携わったり、一般のカフェを経営している者もいた。また、自ら経営している社会福祉法人や劇団でコミュニティカフェを開こうとして、受講した者もいた。

主な内容：

講師が注力したのは、各人による事業計画書づくり。見学先のコミュニティカフェ主宰者や中小企業診断士による講義も加えて、事業コンセプトの設定から提供するサービス、販促・仕入れ計画、資金計画、損益計画までを徹底的に考えさせた。「思いがあっても、自分達目線ではダメです」。受講生が頭で考えたことを客観視させた。

④第 3 期（チラシ、カリキュラム参照）

日時：2 月 9 日（土）～3 月 23 日（土）の 10：00～16：00、全 5 回

場所：中野区勤労福祉会館研修室、スマイルなかの会議室、中野区役所会議室。2 月 11 日（月）～3 月 1 日（金）までの希望する日に地域コミュニティ拠点「芝の家」（港区）で 1 日（7 時間 30 分）、「居たいように居る」現場体験

主任講師：坂倉杏介氏（慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師、三田の家 LLP 代表）

講師：広石拓司氏（株式会社エンパブリック代表。第 2 回担当）

丸山伊太郎氏・中村信子氏・鈴木純子氏・前田量子氏（4 人は中野のコミュニティカフェ「エカイエ」の共同オーナー。第 3 回担当）

受講生：

24 人の応募者の中から、22 人に受講を認めた。うち 2 人は 2 期の受講生。

3 期は中野区民は 7 人と少なく、その他 15 人となった。女性 16 人、男性 6 人。3 期も、最も若い 27 歳の男性から最年長の 64 歳の女性まで年齢には幅があったが、40~50 歳代が 3 分の 2 を占めた。既にコミュニティカフェの運営に携わっている者も 2 人おり、所属する NPO で開こうとしている者も 2 人いた。

主な内容：

毎回の受講生同士の対話などを通じて、「人と人との関わり」を考え、「場づくり」の技法を学んだ。「その場にいる人を大切にする『人間中心の場』を日常生活の中に開きたい。他者との出会いがうつつとネットワークをつくり、両者の相乗効果が豊かな『場』をつくる」（坂倉さん）。希望する日に 2、3 人に分かれて、芝の家で

「いたいようにいる」体験をし、体調と気分、プロセスを確認、共有する到着時と終わりの振り返りミーティングに参加した。

⑤成果発表と交流の会（当日の資料、時事通信配信記事参照）

協議体の第6回会議（1月16日）で「講座の研修成果を一般市民に披露し、また他の期の受講生や一般市民と交流してもらうことにより、コミュニティカフェ新規開設への動きを加速させよう」という意見が出て、開くことになった（研究会1回分から振り替え）。

日時：3月10日（日）13：30～17：00

場所：中野区役所7階会議室

参加者：受講生18人、一般51人、計69人参加

内容：

第1部：受講生によるコミュニティカフェ・プラン発表と講師の講評、一般参加者との質疑応答。5人と1グループが発表（詳細は冊子参照）。

第2部：テーマごとに分かれての分科会

- (1) 多世代交流のカフェ（和田夏子氏担当）
- (2) 高齢者予備軍の居場所（大畑きぬ代氏担当）
- (3) （主に精神）障害者の就労支援カフェ（中川弥生子氏・村松いづみ氏担当）
- (4) 安心・安全な食事を提供するカフェ（希望者が少なかったため、取りやめ）
- (5) 自宅や公民館などで手軽に開けるカフェ（山根眞知子氏担当）
- (6) コミュニティカフェが地域で果たせる役割とは何か？ またそのためには何をしたらよいか？（山本祐也氏担当）

⑥現状の成果

⑤の成果発表会で発表しなかった者も含めて、現在のコミュニティカフェ開設の動きを把握すると、以下ようになる。

受講前から始めている、運営に関わっている：1期2人、2期2人の計4人。

一般的なカフェを運営しているが、それをコミュニティカフェにしようとしている：2期2人。

講座をきっかけに、常設か、単発ではあるが日替わりのコミュニティカフェを開いた：1期1組（9人）、2期1人、3期2人の計11人。

現在準備中で、数カ月以内に開く予定：1期1人、2期2人、3期2人の計5人。

時期ははっきりしていないが、近いうちに開くと思われる：1期2人、2期1人、3期4人の計7人。

上記のように、1～3期のだぶりを除いた計59人のうち、約半数の29人がコミュニティカフェを始めたり、準備中であることがわかった。

⑦受講生の感想

【1期】

Aさん

年齢の幅のある仲間たちで色々な意見交換があり、楽しかったです。教えて頂いたように、あの場所での仲間作りはとても重要に感じました。

私は全くのコミカフェ初心者（利用者としても、開設するとしても…）なので、コミカフェの社会的役割などの部分については、もう少し噛み砕いたレクチャーを頂けると、なお良かったかと思います。また、その社会的役割を果たすのに、私のように別の仕事との共存は時間的に難しい部分があるようにも思いました。やはり私自身、もう少しゆとりがないとコミカフェ方面にきちんと時間を取れないので、それは反省点でもあります。

時々皆様と情報交換はしたいと思っています。

Bさん（2期も受講）

仲間に出会うことができ、実際に活動が始まったのは、ひとえに講座のおかげです。本当に参加してよかったと思っています。これからもこのネットワークを絶やさず、中野区にとどまらないつながりづくりを行えるよう頑張ります。

Cさん

就職や企業内では成立しないであろうタイプの人々との輪が作れたことが最大の収穫だと思います。これからの社会では企業などの雇用主に従う以外の環境で人間関係を構築していくことが生活を豊かにしていく鍵になるはずです。その意味でも、地域の仲間ができたことで、今後の私の生活にもいい影響があるはずです。今回の講座を受講できたことを感謝しております。

Dさん

講座に参加して、参考になることもいくつかありましたが、仕事を始めている者としては、自分の所の条件に合わせて出来ることからやっていき、地域の信頼を勝ち得ていくことしかないと確信し、改めてそのことを大事にしています。

お陰さまで、かふえカサムシからしさを発揮させて、認知度もあがり、これからの期待が持てるようになりました。

Eさん

「地域ニーズ」「コミュニティとは」「皆を巻き込んで共に歩む仲間」「利益を出す」。講師の工藤先生が講座中に何度も繰り返されていたこれらのワードが頭から離れません。一人では不可能な事も共通の目的を持つ仲間がいれば可能になる。仲間の大切さ、可能性の広がりを実感しました。大変良い講師、良い仲間にも恵まれ、受講させていただいたことに大変感謝しています。

Fさん (2期も受講)

中野に引っ越してきて13年、それ以前から中野に来ることは多かったものの、地元感はほとんどなく過ごしていました。

赤ちゃんからお年寄りまでが楽しめるコミュニティスペースを作りたい！という私の遠い夢に、一歩近付けたのがコミカフェ講座でした。

何よりも、一番の収穫は仲間。半年前までは名前すらわからなかった人達と、講座で出会い、時間割カフェを発案し、団体を結成して活動できるようになるとは思いもしませんでした。

そして、そこで生まれたのが地元愛(?) 地元での活動が楽しみになってしまった。ここまできたらやるっきゃない！ひとりじゃムリだけどみんなと一緒にならできそう！中野区内で活動しよう！そう思えるようになったのも、コミカフェ講座やそこで出逢った方達のおかげですね。

まだまだ、始まりの一歩でしかありませんが、いずれは場所を決めて「時間割カフェ」をやっていきたいと思います。

Gさん

講座が始まる以前からコミュニティカフェを作りたいと考えていたため、具体的に考えることができました。特に複合的利用の仕方や運営資金、二次的仲間の考え方参考になりました。

講義だけでなくワークショップ形式は良かったと思いますがグループの編成については一考を要すると思いました。人数的にも偏りすぎたと思います。

【2期】

Hさん

毎回のワークショップは大変だったものの、良い意味で緊張感が持てて、大変、勉強になりました。私のところは、すでにカフェを開設していますが、これから更

に売上を伸ばしていくために必要な「お客様目線」を再確認することができました。

I さん (3 期も受講)

2 期は事業計画を作るのに良かった。3 期は基本となる人とのつながり方を学ぶことが出来て有意義だった。

J さん

頭で考えてきた事が、客観視できて良かった。先生方のアドバイスのおかげで、アンテナが広がりさらに様々なアイデアに繋がった。ここまでやったのだから・・・という後押しにもなる。若い受講生の意欲に脱帽！がんばってほしい。

K さん

山根先生、金先生のお話は非常に分りやすく、体系的・実践的に説明していただけたので、本当にありがたく思っております。

また 2 カ所の視察と 1 カ所の懇親会を含め、多くの事例を紹介いただいたので、大いに参考になりました。

さらに事業計画の発表では、皆さん、やりたいことや生き方（理念）が明確であり、感動を覚えました。

自分の計画の熟度の低さばかりが反省させられました。中には実際にコミュニティカフェで働いている方もおられ、何らかの修行の必要性が痛感させられました。加えて多くの仲間ができたことは、大きな財産となりました。

L さん

新規の事業を立ち上げるというのは容易ではないと痛感いたしました。ただ今の世の中、何がビジネスになるか分かりませんし、発想によっては無限の可能性があると思えました。講座の途中で来なくなってしまう方が多かったのは残念でしたが、実際のカフェ見学や事業計画作成などは興味深く、また色々な方の話を聞くことができて大変勉強になりました。どうもありがとうございました。

M さん

思いを形にできたらと思いつつ、毎回楽しみながら参加させていただきました。分かりやすい山根先生の講座や、実際のカフェ訪問は本当に楽しかったです。事業計画書の作成は、どんどん思いが膨らみすぎて簡単に作れる物ではありませんでした。

Nさん

現場見学など、実践で活躍されている方を中心に事例を聞いたのはとても良かったです。また、講師の山根先生も気さくな方で、親身にいろいろと相談にのっていただけなので大変感謝しております。2期は中野区外の方も多くいらっしゃいましたが、近隣で同じ方向性・目的を持った方とのつながりができたことも良いことだと思います。

受講生全体の印象として、まだこれからという方が多かったように思いますが、HさんやSMさんのように既に事業をしている方もつながりやコラボレーションを得る機会を作りましょう！みたいな内容『事業者（リーダー）とこれから起業する人（メンバー）でグループワークなど』を盛り込んだ講座等が次回以降あれば、また参加したいです。

【3期】

Oさん

坂倉先生の講座はとても面白く、今まで何気なくとっていた、対人関係の原点について学びました。そして、コミュニティの大切さだから、私はカフェをやりたいと思ったんだと自分の夢についても確信を得る事ができました。

なにぶん、まだ子どもも小さく全ての講座、行事に参加したかったのですがなかなか叶わず、また再びあれば参加して新たな勉強をしたいです。ありがとうございました。

Pさん

講座に参加し、いろいろなバックグラウンドの方と出会え、今後の参考になります。今出来ることにしっかり取り組みたいです。

Qさん

今までずっと地域場の場作りについて考えてきましたが、この講座のおかげで自分の中のイメージがグッと具体的になりました。また、先生のお話や芝の家での研修、皆さんとのディスカッションの中から色々なアイデアもいただきました。これからはこの講座で学んだ事をしっかり活かしてより具体的にしていきたいと思います。

坂倉先生のおだやか～なお人柄のおかげか、受講生の皆様も大変良い方が多く、今後も情報交換をしたりお互いに切磋琢磨していける心強い仲間ができて、本当に良かったと思います。

Rさん

講座を受講して、今まで知らなかったことをたくさん知ることが出来ました。今まで家庭に身を置いてきた私にとって、これからコミュニティの中に参加していくのに、この講座を受講したことが自信になると実感しています。

坂倉先生の研究では、特に「しくみ」の部分が新鮮です。

お陰様で、既にエカイエさんとも接点が出来ました。

Sさん

先日のエカイエのお話で、自分の中にあったものが具体的になってきた気がします。丸山さんのお話、風貌など、とても刺激を与えられました。参加して、まだまだ出来ないと思っていたカフェがなんだか実現できるような気がしてきました。

Tさん

講座に参加して、講師の方々はもちろんですが参加者の方々ともたくさん交流させていただき本当に良い経験になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんそれぞれ考えてることや、やりたいこと、興味関心があること等が違うので本当に楽しかったです。いろいろな話を聞いて改めて自分がどうゆうことをしていきたいのかを考えさせられました。

またコミュニティの重要性、必要性を強く感じるきっかけとなりました。この縁がこれで終わることなくずっと続いていけば本当に素敵なことだと思います。そうあることを強く願っています。

Uさん

人間的にも成長できる内容でとても勉強になっています。漠然としたカフェ像も少しずつ具体的になっていて今後に繋がると思います。

Vさん

「芝の家」でのすばらしい出会いが忘れられません。最大の学びは「居たいように居る」ことがこんなにも快感だということです。今後寄らせていただくことがあります。その時はどうぞよろしくお願いします。

Wさん

これほど参加者同士が近くなれた講座はありませんでした。

今会社勤めしている方も数年勤めている人たちよりも考えなどを発表し、強く持っている思いなどを伝えあえていると思います。

参加者が近いうちにより多くコミュニティカフェ開設できればいいと思います。

(2) コミュニティカフェ研究会

WAC がこれまで独自に続けてきたコミュニティカフェ研究会も、新しい公共支援事業の一環として開いた。以下は、日時、会場、参加者数、テーマ、講師、講演要旨。

第 26 回（新しい公共支援事業としては第 1 回）（チラシ参照）

9 月 22 日（土祝）14：00～16：00、中野区役所会議室、61 人（資料代 500 円を支払った有料入場者数のみ。毎回、このほかに講師、スタッフ、報道等が 5 人程度いる）

「新しい『公共の場』としてのコミュニティカフェ」

法政大学法学部教授・名和田是彦さん

仲間うちだけでない、不特定多数に開かれた公共空間をつくる試みが各地で始まった。弱体化した自治会や町内会に代わって、担い手を発掘する最前線にあるのがコミュニティカフェである。

私に関わっているのは横浜市の港南台タウンカフェ。地域の行事の準備に大学生から高校生、時には中学生も集まる。郷土史の会といった仲間うちの集まりの隣に、公共世界が広がっている。

第 27 回（第 2 回）

2012 年 10 月 15 日（月）19：00～21：00、なかの ZERO 学習室、32 人

「えんがわ事業でまちづくり」

NPO 法人としま NPO 推進協議会代表理事・柳田好史さん

コミュニティカフェは地域の課題を解決する場で、課題をとらえなければ長続きしない。賛同し、共感し、参画してもらうことで、地域の宝、人が集まる場になる。我々コーディネーター、日常業務を運営するスタッフ（プレーヤー）、町会・商店会・大学・行政などのサポーターが協調して、えんがわが成り立っている。昼間は子ども英会話教室を行い、夜間は塾にスペースを貸して、収益源にしている。

第 28 回（第 3 回）（チラシ参照）

2012 年 11 月 7 日（水）19：00～21：00、なかの ZERO 学習室、26 人

「日替わりオーナー制で広がるコミュニティカフェの可能性」

洗足カフェプロジェクト代表・和田夏子さん

日替わりオーナー制のメリットは、お客さんは毎日違うランチが楽しめるので、毎日通っても飽きない。オーナーにとっては、初期コストがかからない、元々の仕事を辞めずにチャレンジできるなど、少ないリスクで始められる。オーナーは、利益を第一目標にして開業しているわけではないので、1日当たりの利益は少なくとも頑張れる。地域貢献したいと思っている人が多い。

第29回（第4回）

2012年12月19日（水）19：00～21：00、なかのZERO学習室、24人

「サロンを拠点に、地域で孤立しないつながりづくり」

スープの会スタッフ・新部聖子さん

元々は路上生活を脱出した人が地域とつながる場所が必要と考え、「風まちサロン」を設けたが、今の利用者のほとんどは地域の人だ。あらかじめプログラムがあるわけでない。来なくなったら来て、帰りなくなったら帰る。日・水曜以外の午後2～5時と金曜夜間に開いているが、地域の人が利用しやすいようにと、いつでも開いていることが大事だ。

第30回（第5回）（チラシ参照）

2013年1月28日（月）19：00～21：00、中野区役所会議室、25人

「事業ミックスにより、持続できる居場所づくり」

NPO法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会代表理事・紀平容子さん

阪神大震災で祖母が生き埋めになったのを近所の人たちが掘り起こしてくれた。地域で人と人のつながりがなければ生きていけないと思い、人のつながりをつくる活動を始めた。毎日50～70食配達する弁当を作っているレストランと、家庭的な雰囲気一人でひとりに合った介護を行っているデイサービスが、ひろばの赤字を埋めている。いずれもマーケティングや準備などに1年近くかけた。

第31回（第6回）

2013年3月5日（火）19：00～21：00、桃園区民活動センター、19人

「あっとホームな、みんなの拠点づくり」

ケアラズカフェ&ダイニング アラジン専任スタッフ・森川恵子さん

ケアラー（介護者）がいつでも気軽に立ち寄れる居場所をつくろうと、1年前にオープンした。ケアや生活、健康をテーマにした講座を、地元の病院や一般企業の協力を得て行っている。親を介護する娘（息子）だけの「娘（息子）サロン」も開

く。60代女性の利用が多い。人件費の負担で赤字なので、朝食からランチまではシェフ、午後はアラジン、夜はバーマスターを事業主にして、各々の創意工夫で稼ぐことを検討している。

(3) 設立・運営支援（個別相談）

開設講座や研究会の参加者なども含めて、コミュニティカフェを開きたい人の質問・相談に事務局が応じた。全国からの電話・メールに対応するとともに、東京近郊の人にはWAC事務局で会い、遠方の人にも、別件の出張の際、会ったりした。

5. 事業実施上の課題

①3期講座の受講生59人のうち、NPO等団体関係者は11人と、予想以上に少なかった。しかし、1期受講生を中心にした「なかのコミュニティ研究会 てたて」のグループにNPO設立の動きがあるので期待している。

②講座の内容で見れば、第3期の場づくりの技法→第1期の地域課題を洗い出し、事業運営プログラムを作る→第2期の事業計画書づくりの順で進められればよかったが、講師の都合により叶わなかった。反省材料である。

6. モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

講座の内容をテキストにしようという考えもあったが、講師の反対もあり、取りやめた。コミュニティカフェといっても、いろいろなタイプがあり、標準化できない。しかし、求められれば、他のNPO等にモデルを公開するし、他の区市でも同様の事業が行えればと思っている。

7. 平成25年度以降の予定

平成25年度以降も受講生や受講生相互の交流の支援は続け、より多くのコミュニティカフェ開設に結びつける。

実際に開いたコミュニティカフェの事例が増えたら、中野区役所などを使い、金がかからない形で発表会を開きたいと考えている。

コミュニティカフェ開設講座

第1期

地域の人が集まって、飲食を楽しみながら、子育てや高齢者、障害者の支援、まちづくりなどに取り組む場、「コミュニティカフェ」。中野区では区、社会福祉協議会、長寿社会文化協会(WAC)、区内NPO等と「協議体チーム中野」を構成し、コミュニティカフェを開きたい団体、個人等向けに開設講座を行います。第1期は、ワークショップと事例見学を通して、まちづくりの視点で事業計画・運営プログラムを皆で作り、おもいをカタチにしていく全12回の実践的な講座です。

主任講師・コーディネーター



工藤秀美氏

1949年生まれ。「自分たちのまちの住みやすさは、役所に希望するだけでは実現できない」と、住民参加型のまちづくりの重要性を提唱し、調査計画づくりから携わる。また、稼ぐNPO活動、ソーシャルビジネスなどの各地域での実践にも関わっている。かつて、中野区江原町に約10年住み、中野区まちづくりアドバイザーを務めたことも。現在、市民シンクタンク株式会社ひとアンドまち研究所代表取締役。NPOの理事、新宿区等まちづくり相談員、葛飾区のコミュニティカフェ開設講座や東洋大学の講師等も務めている。

カリキュラム(予定)

回	日程	場所
1	10月2日(火)	中野区役所会議室
	内容	地域社会の再生と注目されるコミュニティカフェ
2	10月9日(火)	中野区役所会議室
	内容	各地でのコミュニティカフェ、事例から学ぶ
3	10月20日(出)	総合的先進事例
	内容	コミュニティカフェ先進事例の見学
4	10月23日(火)	中野区役所会議室
	内容	コミュニティカフェの事業計画の作り方と住民意見の集約方法
5	10月30日(火)	中野区役所会議室
	内容	地域課題の洗い出しと地域ニーズ把握の必要性
6	11月6日(火)	中野区役所会議室
	内容	コミュニティカフェの事業計画づくり
7	11月10日(出)	テーマ別先進事例①
	内容	コミュニティカフェの事業運営に向けての先進事例見学①
8	11月17日(出)	テーマ別先進事例②
	内容	コミュニティカフェの事業運営に向けての先進事例見学②
9	11月19日(月)	中野区役所会議室
	内容	コミュニティカフェの事業計画と運営プログラムのイメージづくり
10	11月27日(火)	中野区役所会議室
	内容	コミュニティカフェの事業運営計画づくり①
11	12月4日(火)	中野区役所会議室
	内容	コミュニティカフェの事業運営計画づくり②
12	12月11日(火)	中野区役所会議室
	内容	発表会

※時間:平日は19:00~21:30、土曜は午後(予定)

受講料 {3,000円} {全12回、資料代含む。事例見学の交通費、飲食費は別途自己負担}

定員 {20人} {※応募者多数の場合は、別途選考させていただきます。11月下旬からの第2期(事業計画書作成が主体)、1月中旬からの第3期(内容検討中)に回っていただくことがあります。中野区外の方も参加できます。}

主催 {協議体チーム中野 事務局(WAC内) ☎03-5405-1501}



ワークショップ



事例見学

受講申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)上に設けた受講申し込みフォームを入力し、送信してください。

この方法がとれない方のみ、下記項目をFAX: 03-5405-1502、または電話: 03-5405-1501 までお知らせください。
コミュニティカフェ開設講座(第1期)の受講を希望します。

※申し込み期限:9月28日(金)

(ふりがな) お名前 所属・職業 年齢 歳 E-mail

TEL ご住所 〒

一時保育(28日まで申し込み、平日のみ)・子ども氏名 男・女 歳 力月 備考

チラシを入手した場所・人

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第1期

コミュニティカフェ 開設講座

講師 工藤秀美

1. 地域社会の再生と注目されるコミュニティカフェについて
 - ・講座の全体プログラム
 - ・参加者の参加動機と自己紹介
 - ・地域社会の再生と注目されるコミュニティカフェ
2. 各地でのコミュニティカフェ 事例から学ぶ
 - ・各地でのコミュニティカフェの動向
 - ・先進事例（4～5例）から見るコミュニティカフェの特色
(主要テーマ：高齢者・障害者・子ども・生涯教育・生活環境・地域防災・・・)
 - (運営方法：座学講座・まち歩き(問題の発見)・交流会・支えあい・食事会・・・)
 - ・先進事例視察地の事前説明
3. コミュニティカフェ先進事例の視察
 - ・総合的に展開している先進事例（1か所）の視察
 - ・視察の各自の評価感想
4. コミュニティカフェの事業計画のつくり方と住民意見の集約方法について
 - ・事業計画の進め方とつくり方について
 - ・住民意見の集約方法について（ワークショップの進め方）
5. 地域課題の洗い出しと地域ニーズ把握の必要性について
 - ・班編成（A班・B班）
 - ・自分たちの地域の地域課題の洗い出し（ワークショップ）（2班に分かれて）
 - ・地域ニーズの把握方法について（アンケート調査票の組み立て）
 - ・場所の設定と地域資源特性の発見と反映方法について
 - ・まとめ報告
6. コミュニティカフェの事業計画づくりについて
 - ・コミュニティカフェの事業計画（2班に分かれて）
 - ・地域ニーズ（アンケート調査）の整理と計画への反映
 - ・A班の事業計画のまとめ（概略）（ワークショップ）
 - ・B班の事業計画のまとめ（概略）（ワークショップ）
 - ・まとめ報告

7. コミュニティカフェの事業運営に向けての先進地視察（事例1）
 - ・先進地視察（事例1）での説明・懇談会
 - ・各自の講評（テーマ別の事業運営のポイントの整理）

8. コミュニティカフェの事業運営に向けての先進地視察（事例2）
 - ・先進地視察（事例2）での説明・懇談会
 - ・各自の講評（テーマ別の事業運営のポイントの整理）

9. コミュニティカフェの事業計画と運営プログラムのイメージづくりについて
 - ・各事例資料をもとに、事業計画・運営プログラムの参考資料をまとめる
(各班に分かれて)
 - ・各班のコミュニティカフェ切り貼り絵図の作成（ワークショップ）
 - ・各班のコミュニティカフェ切り貼り絵図の作成（ワークショップ）
 - ・地域資源特性を踏まえての場所の設定
 - ・まとめ報告

10. コミュニティカフェの事業運営計画づくりについて（その1）
 - ・事業運営プログラムづくりの話し合い（各班に分かれて）
(事業毎に、開催曜日・日時、詳細事業メニュー、スタッフ・・・)
 - ・〇班の事業運営プログラム図表の整理（ワークショップ）
 - ・〇班の事業運営プログラム図表の整理（ワークショップ）
 - ・まとめ報告

11. コミュニティカフェの事業運営計画づくりについて（その2）
 - ・事業運営プログラムづくりについて（各班に分かれて）
(事業毎に、開催曜日・日時、詳細事業メニュー、スタッフ・・・)
 - ・〇班の事業運営プログラム図表の整理（ワークショップ）
 - ・〇班の事業運営プログラム図表の整理（ワークショップ）
 - ・まとめ報告

12. 発表会
 - ・各班の発表
 - ・参加者の感想・講評
 - ・今後の展開に向けて（助成金の活用など）

コミュニティカフェ開設講座

第2期

主任講師 コーディネーター 山根真知子氏



東京都出身。パルシステム東京などの生協で、市民活動の立ち上げおよび支援に携わる。2002年からNPO法人NPO事業サポートセンターの理事として、NPOの設立支援、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスに関する相談や研修などを行う。2005年からパルシステム生活協同組合連合会の専門委員として、女性の起業支援講座「実践起業塾」などを担当。2007年2月から3年間、NPO事業サポートセンターが運営受託した中野区公益活動情報コーナー（区役所1階）の責任者も務めた。書籍「コミュニティ・カフェをつくらう!」（学陽書房、2007年刊）の執筆者の一人。

講師(第5回担当) キム ス ノウ 金 順玉氏



東京都出身。中小企業診断士、消費生活アドバイザー。家業である飲食店、ホテル等の経営を経て、1998年に独立。個店、商店街、中心市街地活性化のコンサルティングや専門学校、社員研修、起業塾等の講師歴多数。

受講料 { 3,000円 } { 全6回、資料代含む。事例見学の交通費、飲食費は別途自己負担 }

定員 { 20人 } { ※応募者多数の場合は選考したり、第3期(1月中旬開講)に回ったりしていただくことがあります。中野区外の方も受講できますが、都外の方はお問い合わせください。 }

主催 { 協議体 チーム中野 事務局 (WAC内) Facebook ページ team.nakano1 ☎03-5405-1501 }



ワークショップ

事例見学

中野区では区、社会福祉協議会、長寿社会文化協会(WAC)、区内NPO等と「協議体チーム中野」を構成し、コミュニティカフェを開きたい団体、個人等向けに開設講座を行っています。第2期は、事例見学からコミュニティカフェのノウハウを学び、ワークショップで学びを個別の事業計画にまとめていきます。毎回のまとめが事業計画になっていく、「おもいを形」にしていく全6回の実践的な講座です。

カリキュラム(予定)		
回	日程	場所
1	11月23日(金祝)	なかのZERO 西館学習室B
内容	事業コンセプトの設定 ●講義:①事例に学ぶ。②起業のきっかけや資金の作りかた、現在までの事業の歩みを学ぶ。 ●ワークショップ:①事業コンセプトを考える。②ビジネスプランを考える。	
2	12月8日(土)	現場見学①
3	1月12日(土)	現場見学②
内容	現場見学から学ぶ①「事業・サービスを考える」 現場見学から学ぶ②「事業計画書を作成する①」 ●講義:団体の現場を見学し実感を持つ。代表者などの講演を聞き、設立の経過、経営状況などを学ぶ。 ●ワークショップ:午前中の現場見学や講演を参考に、事業やサービスの具体的内容を考える。②地域資源について考える。③マーケティングについて学ぶ。	
4	1月26日(土)	なかのZERO 西館学習室2
内容	さまざまな事例から学ぶ「事業計画書を作成する②」 ●講義:さまざまなコミュニティカフェの事例を学ぶ。 ●ワークショップ:午前中の講義を参考にマーケティングを学ぶ。②第2・3回で考えた事業・サービス内容等を基に、事業計画書を作成する。	
5	2月2日(土)	中野区役所9階第11会議室
内容	資金計画、損益計画を学ぶ「事業計画書を作成する」 ●講義:創業資金の集め方や助成金の獲得方法などを学ぶ。 ●ワークショップ:①資金計画、損益計画を作成する。②事業計画書を作成する。	
6	2月16日(土)	中野区役所9階第11会議室
内容	「事業計画・資金計画のブラッシュアップ」 ●発表とコメントーターの講評:①事業計画書の発表。②事業計画書に補足することを見つける。③事業計画書の課題を見つめ、解決策を知る。	
※時間は10:00~16:00(予定)		

受講申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記Facebookページに設けた受講申し込みフォームを入力し、送信してください。

この方法がとれない方のみ、下記項目および「受講の動機や開きたいコミュニティカフェ」についての作文(400字以上)を

FAX: 03-5405-1502 までお送りください。

コミュニティカフェ開設講座(第2期)の受講を希望します。

※申し込み期限:11月15日(内)

(ふりがな) お名前 所属・職業(具体的に) 年齢 歳 E-mail

TEL ご自宅住所 〒

受講の可否(都合がわかっていたら○×を付ける) 11月23日 12月8日 1月12日 1月26日 2月2日 2月16日

チラシを入手した場所・人

※お預かりした個人情報、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第
28
回

コミュニティカフェ研究会

テーマ 日替わりオーナー制で広がるコミュニティカフェの可能性

「地域の人が気軽に利用できるカフェを作りたい」という共通の想いで集まった日替わりオーナーが、得意な料理や菓子でもてなす「洗足カフェ」(東京・目黒)。NPO法人南房総リパブリックが南房総と都内の二地域の交流拠点として、南房総の安心できる米や野菜を共通食材として使いながら進めているコミュニティカフェ運営活動です。洗練されたデザインのHP、ブログをはじめ、Facebook、Twitterで日々の献立やイベント情報も発信しています。それらについて、洗足カフェプロジェクト代表の和田夏子氏にお話しいただきます。



和田夏子氏



1975年生まれ。東京大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。2001～2008年、株式会社都市デザインシステムでコーポラティブハウス、複合施設、賃貸住宅などの設計、企画・プロデュース、プロジェクト推進などに携わる。2008年から東京大学新領域創成科学研究科特任研究員。持続可能な社会の実現をテーマに、都市のCO₂排出量評価、コンパクト化の手法、まちづくり等の研究を行っている。一級建築士、博士(環境学)。2008年に長女が生まれてからは、安全な食材への関心と自然に触れさせる子育てへの共感からNPO法人南房総リパブリックの活動に参画(理事)。

日時	2012年 11月7日(水)	
	19:00～21:00(18:30開場)	
会場	中野区役所9階会議室 JR中野駅前 ※サンプラザ側入口からお入りください。	
参加費	500円 ※資料代含む	定員 75人 ※中野区外の方も参加できます。



主催 協議体チーム中野

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① 中野区
地域支えあい推進室 | ② 公益社団法人
長寿社会文化協会(WAC) |
| ③ 社会福祉法人
中野区社会福祉協議会 | ④ NPO法人
中野の和 |
| ⑤ NPO法人
カサ デ オリーバ | ⑥ NPO法人
障害者の就労を進める会 そら |
| ⑦ 任意団体
ドロップインほっとほっと | |

事務局(WAC内) ☎03-5405-1501
Facebookページ team.nakano1

参加申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記 Facebook ページに設けた参加申し込みフォームを入力し、送信してください。

この方法がとれない方のみ、下記項目を FAX : 03-5405-1502 または電話 : 03-5405-1501 までお知らせください。
(空席がある場合、当日の飛び入り参加も可能)

第28回コミュニティカフェ研究会【11月7日(水)】に参加します。

(ふりがな)

お名前	所属・職業	年齢	歳	E-mail
TEL	ご住所 〒			
一時保育(1日まで申し込み、定員10名)・子ども氏名		男・女	歳	力月 備考

チラシを入手した場所・人

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第2期「コミュニティカフェの作り方講座」企画概要

NPO 法人NPO事業サポートセンター
理事 山根真知子

■講座内容の趣旨

NPOや任意団体が、居場所や情報の提供・ネットワークなどの目的で、コミュニティカフェを新たに設置することを中心にしたコミュニティカフェの作り方を講座の企画内容としている。

■獲得目標

- 事業計画書を作成し、コミュニティカフェ開設に必要な知識を得る。
- 現場見学やワークショップを行うことで、各自に対応した事業計画書を作成する。

<講座内容>

	講座概要
第1回講座 10:00~16:00 「事業コンセプトの設定」	◆講義 □事例に学ぶ。 □起業のきっかけや資金の作りかた、現在までの事業の歩みを学ぶ ◆ワークショップ □事業コンセプトを考える □ビジネスプランを考える。
第2回講座 10:00~16:00 現場見学から学ぶ(1) 「事業・サービスを考える」	◆講義 □団体の現場を見学し実感を持つ。代表者などの講演を聞き、設立の経過、経営状況などを学ぶ。 ◆ワークショップ □午前中の現場見学や講演を参考に事業やサービスの具体的な内容を考える。 □地域資源について考える。
第3回講座 10:00~16:00 現場見学から学ぶ(2) 「事業計画書を作成する①」	◆講義 □団体の現場を見学し実感を持つ。代表者などの講演を聞き、設立の経過、経営状況などを学ぶ。 ◆ワークショップ □午前中の現場見学や講演を参考に事業やサービスの具体的な内容を考える。 □地域資源について考える。

<p>第4回講座 10:00～16:00 様々な事例から学ぶ 「事業計画書を作成する②」</p>	<p>◆講義 □様々なコミュニティカフェの事例を学ぶ ◆ワークショップ □午前中の講義を参考にマーケティングを学ぶ。 □第2回の事業・サービス内容等をもとに、事業計画書を作成する。</p>
<p>第5回講座 10:00～16:00 資金計画、損益計画を学ぶ 「事業計画書を完成する」</p>	<p>◆講義 □創業資金の集め方や助成金の獲得方法などを学ぶ。 ◆ワークショップ □資金計画、損益計画を作成する。 □事業計画書を完成する。</p>
<p>第6回講座 10:00～16:00 「事業計画・資金計画のブラッシュアップ」</p>	<p>◆発表とコメンテーターの講評 □事業計画書の発表 □事業計画書に補足することを見つける。 □事業計画書の課題を見つけ、解決策を知る。</p>

第2期講座構成 ビジネスプランの全体像を学ぶ

■コミュニティカフェの事業計画を作成することを目的にした講座です

どんな事業をするのか <input type="checkbox"/> ビジネスプランを考える <input type="checkbox"/> 事業コンセプトの設定 <input type="checkbox"/> 提供する事業・サービスを考える	事例から学ぶ <input type="checkbox"/> 2団体を訪問 <input type="checkbox"/> 現場を知る <input type="checkbox"/> 事例から、設立時の資金調達などから現在の事業までの経歴・運営について学ぶ	来てもらいたい人に、来てもらうためにすることを考える <input type="checkbox"/> お客様にきてもらい買ってもらうために「マーケティング計画」を考える <input type="checkbox"/> マーケティングミックスを学ぶ <input type="checkbox"/> 事業計画の作成	その事業にいくらかのお金がかかるのか。 借りの必要があるお金はいくらか、どう返すのか、いくら利益を得るのかを考える <input type="checkbox"/> 資金計画作成 <input type="checkbox"/> 損益計画作成 <input type="checkbox"/> 事業計画作成	事業計画・資金計画のブラッシュアップ <input type="checkbox"/> 各自の事業計画を、専門家のコメントでさらに高める
--	---	--	--	--

➡ ➡ ➡ ➡

第1回 オリエンテーション

今日の進め方

<input type="checkbox"/> 起業や新規事業を実現するために <input type="checkbox"/> 自己紹介 <input type="checkbox"/> 講義で学ぶ	<input type="checkbox"/> ワークショップで自分のやりたいことを整理 <input type="checkbox"/> 事業コンセプトを考える <input type="checkbox"/> ポストイットでやりたいことを膨らませる	<input type="checkbox"/> 事業コンセプトを考える <input type="checkbox"/> ワークシートで事業コンセプトをまとめていく <input type="checkbox"/> 本日にやりたいことが確認する	発表 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> お互いの事業から学び合う
---	---	---	---

➡ ➡ ➡ ➡

第2回 オリエンテーション

今日の進め方

<input type="checkbox"/> ワークショップで自分のやりたいことを整理 <input type="checkbox"/> ワークシートに事業やサービスを記入 <input type="checkbox"/> グループワークで補強	<input type="checkbox"/> ワークショップで自分のやりたいことを整理 <input type="checkbox"/> 対象やサービスを考える <input type="checkbox"/> 事業を進める時に足りないことや必要なことを確認する	事業の性格を確認 <input type="checkbox"/> 収益性のある事業？ <input type="checkbox"/> ボランティアベースの事業？ <input type="checkbox"/> 他と違う特徴	発表 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> お互いの事業から学び合う
--	---	--	---

➡ ➡ ➡ ➡

第3回 オリエンテーション

今日の進め方

<input type="checkbox"/> 事例に学ぶ <input type="checkbox"/> 前回の振り返り <input type="checkbox"/> ローヤカフェIikkaの事例に学ぶ <input type="checkbox"/> 前回までの振り返り	<input type="checkbox"/> ワークショップで自分のやりたいことを整理 <input type="checkbox"/> 対象やサービスを考える <input type="checkbox"/> 事業を進める時に足りないことや必要なことを確認する	事業の性格を確認 <input type="checkbox"/> 収益性のある事業？ <input type="checkbox"/> ボランティアベースの事業？ <input type="checkbox"/> 他と違う特徴	マーケティングを考える <input type="checkbox"/> 商品・価格戦略 <input type="checkbox"/> 販売戦略 <input type="checkbox"/> プロモーション
--	---	--	---

➡ ➡ ➡ ➡

第4回 オリエンテーション

今日の進め方

<input type="checkbox"/> 事例に学ぶ <input type="checkbox"/> 前回の振り返り <input type="checkbox"/> エカイエなどの事例に学ぶ <input type="checkbox"/> 前回までの振り返り	マーケティングを考える <input type="checkbox"/> コミカフェを知ってもらうには <input type="checkbox"/> ワークシートで伝える手段を考える <input type="checkbox"/> 知ってもらう仕掛けを考える <input type="checkbox"/> リスクを考える <input type="checkbox"/> 仕入れ方法を考える	創業資金・助成金 <input type="checkbox"/> 創業資金を楽める <input type="checkbox"/> 創業資金融資を受ける <input type="checkbox"/> 助成金申請のこつ
---	--	--

➡ ➡ ➡

コミュニティカフェ開設講座説明会 アンケート集計結果

欠席者を含めて145人からアンケートを回収

○アンケートに回答した人の性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	年代不明	合計
男性	0	2	9	13	11	5	3	7	50
女性	1	9	11	21	15	10	6	21	94
性別不明								1	1
合計	1	11	20	34	26	15	9	29	145

○居住地

中野	杉並	新宿	三鷹	豊島	国立	板橋	武蔵野	練馬	台東	町田	その他	不明	計
79	6	4	4	3	3	2	2	2	2	2	21	15	145

○コミュニティカフェ全国連絡会をどこで知りましたか？(複数回答あり)

知った経緯	人数	備考
区報	38	
インターネット	26	検索6、コミュニティカフェブログ5
知人から聞いた	24	柳田4、浅川2、多摩信金2、山本・天野敬子・昆布山・佐々木香各1
チラシをもらった	18	中野区役所・なかのZERO・みたかみんな各2、新宿区役所・本町図書館・コルテンポ・鍋横活動・すぎなみNPO各1
掲示板	18	鍋横2
コミュニティカフェ・メルマガ	7	
メール	6	WAC6、tamacb1
Facebook	4	昆布山
生涯大学	3	

○コミュニティカフェとのつながりは何ですか？(複数回答あり)

つながり	人数	備考
知っていて興味がある	39	
初めて知った	20	
始めたい	19	
仕事で関係がある	9	
運営している(た)	7	住民の集いを実施
利用している	3	

○受講の意思

時間が合えば	ぜひ	どちらでもよい	受けない
51	21	5	5

○講座の希望時間(複数回答あり)

土曜午前～午後	平日夜間	平日午前	平日午後
55	42	14	14

○どちらの講座を受けたいか(複数回答あり)

事務局案	山根案
33	31

- ・山根案に事務局案②③(コミカフェの作り方の内容)も欲しい
- ・講座のテーマや回によって選択できる方がいい
- ・収支主体の内容を
- ・最初は一緒に現場見学から別など、専門講座にしてほしい
- ・事業計画中心の講座はほかで行っている開業セミナーでフォローできると思う

○見学したいコミュニティカフェ(複数回答あり)

高齢者福祉	まちづくり	子育て	障害者福祉	スローカフェ	コミレス	ワンデイシェフ	環境
30	28	22	20	28	20	7	8

- ・子育て・高齢者・障害者をミックスしたもの
- ・ソーイングカフェ
- ・防災
- ・サブカル関係
- ・介護者支援
- ・失業者の社会復帰を促す活動としてのコミュニティづくり
- ・哲学カフェ、マイノリティを考える居場所、芝の家
- ・アート

○感想(自由記述)

- ・講演:とりとめもなく退屈。事例:柳田氏の話は参考になった
- ・コミカフェも一定の利益を得なければやっていけないはずだから、その違いをはっきりさせる必要がある
- ・大人の方の話を聞けて、暮らしの財産となった
- ・事例:実際にカフェによる収入で生活は可能か?
- ・久田さんと柳田さんがすぐわかりやすく、イメージがわいて良かった。事業の難しい点をもっと知りたい。
- ・より道も多く面白かった。コミュニティカフェの今後の展望など将来の話も聞きたかった。様々なケースがバランスよく紹介していただいた。山本さんの話をもう少し聞きたかった。
- ・事例:柳田氏の話は具体的でよかった
- ・特技を生かして、皆とワイワイやりたい
- ・堂楽カフェの方は年齢が若いのでカフェの作り方が面白かった。えんがわの話は力強く、地域の活性化で素晴らしいと思った。久田先生の話はとても引き付けられ興味があった
- ・事例:さまざまな側面・ニーズ・キャラクターがわかりましたが、あまりにも視点がバラバラすぎたので、共通の質問などをいくつか作ったり、パネルディスカッション形式がよかったかもしれない。
- 講座:山根案は、内容よりもコンセプトがもう少し見えると良かった。
- ・山本さんの情報収集がすごいと思った。柳田さんのプレゼンの話はとても説得力があった
- ・柳田さんの話が良かった。コミュニティカフェは地域課題が大切だと思った。山本さんの話は本人の趣味の域だと感じた。お金の流れ、経営のやり方等、全く話がなかったのがよく見えない。カフェで不透明さを感じた。
- ・講演:自分のコミカフェの性格や限界を確認する、地域の特性を生かすという話が印象に残った。
- ・講演:期待していたが、あまり学びがなかった。
- ・事例:柳田さんをメイン講師にすればよかった
- ・講演:散漫でわかりにくいので、要点をまとめて話してほしかった。
- ・事例:柳田氏の話は説得力があった。もっと事例を多く紹介してほしい。
- ・事例:えんがわの事例は興味深い反面、利益第一の感が少々あって抵抗があった
- ・案内が室内にあり、途中の出入りが多いため、集中しにくい。

○研究会でのテーマや講師の希望

- ・現場研修
- ・開業時の注意、押さえる点、届け出、地域との関わり
- ・お金をかけないで宣伝する方法
- ・特に助成金なしで運営している事例
- ・情報交換会としての運営や連携企画についての場が欲しい
- ・資金計画、交流会、運営、場所探し、資金調達方法
- ・テーマ別、またはテーマのないカフェなど深い事例や課題解決型のもの。介護、新しい家族会または家族だけではない集まりの模索・講座の受講者同士で話し合う機会をつくってほしい
- ・長年持続できているもの
- ・コミカフェと企業の発想が共通していることはよくわかった。5年以上続く事業は1~2割と言われているので、6年以上続いているNPOの代表者の話を聞きたい
- ・アートによる地域活性化
- ・哲学カフェやコミカフェの中で人生を考えるような学習を実践しているところ
- ・洋裁、和裁、ミシンカフェ
- ・定年退職後の男性を巻き込める事例

コミュニティカフェ開設講座成果発表と交流の会

2013年3月10日(日) 中野区役所会議室

協議体チーム中野

【プログラム】

13:30 開会、挨拶

浅川澄一(協議体チーム中野 代表、

公益社団法人長寿社会文化協会 常務理事)

13:35 成果発表会

工藤秀美 氏(第1期主任講師)

山根眞知子 氏(第2期主任講師)

受講生

15:00 休憩・移動

15:10 分科会

16:10 分科会まとめ

16:30 協議体メンバーあいさつ

16:40 終了(予定)

街の芸術家を応援する、ものづくりカフェ

Art Community Cafe

どんなトコロ？

プロではなく、素人が主役のアートコミュニティスペースカフェ。
作品制作と、その発表を通じて、みんなとつながる場所。
つくる、みる、しゃべる、たべる、かせぐ、つながることができる場所。

カフェ・コンセプト

誰もが気軽にアートに触れ、作り、つながれる場所。
人と作品、人と人、作品と作品をつなげる場所。

アートで遊ぼう

Manufacturing・Cafe・Shop&Gallery・Workshop

なにができるの？

Manufacturing・Cafe・Shop&Gallery・Workshop

アートをつくる →
(作業スペース)

文芸、絵画、工作、音楽、手芸、服飾 等

アートをみる →
(ギャラリースペース)

作品鑑賞

アートでつながる →
イベント (カフェ・ギャラリースペース)

作品展示、個展、ワークショップ、

アートでかせぐ →
(ショップスペース)

ボックスショップで作品販売



MENU

Art Community Cafe の 使命

- ・みんなの「表現したい」を応援すること。
- ・表現しながら食べていく方法を探り、実現すること。
- ・表現者たちをつなげていくこと。

会員登録費	200円
1時間利用料(フリードリンク)	500円
3時間パック(フリードリンク)	1,000円
6時間パック(フリードリンク)	1,600円
ワークショップ(フリードリンク)	1,500円(2H)
作品展示費用	2,000円(1w)
ボックスショップ	2,000円(1w)
レンタル画材(筆、パレットなど)	各300円


 シュミドゥバ
趣味Do場
事業計画書

2013年3月10日
 コミュニティカフェ開設講座 2期生
 森田 壮

目次

- ・概要
- ・事業コンセプト・目的
- ・ターゲット
- ・サービス内容
- ・利用者メリット
- ・事業ミックスと展開方法
- ・損益計画(月次)
- ・おわりに


概要

趣味Do場とは
机ひとつ分のスペースでできる、
ものづくりを楽しむワークショップです。

例えば、

- ・デコ
- ・ソーパークーピング

など



事業コンセプト・目的

『誰でも、気軽に、すぐ、楽しめる』

ものづくりをとおして、
気分転換やストレス解消の
お手伝いをします。


ターゲット

20代～30代
ホワイトカラーのサラリーマン、OL

30代～40代
主婦

サービス内容

- ・作業スペースの提供
70cm四方、イス、机
- ・材料や道具の提供、貸出し
例：ソーパークーピング
提供－石鹸、クリアケース、フェルト、ビーズ
貸出－カービングナイフ、彫刻刀
- ・接客サービス
インストラクション、レッスン、相談等



利用者メリット

- ・持ち物不要、手ぶらでOK
- ・初心者からでもできる安心プログラム
- ・選べるメニュー
- ・作品として形に残り、満足感がある



事業ミックスと展開方法

ワークショップ事業

- ・共同開催
コミカフェ1期メンバーと展開(ウナカメ、川島商店街、etc)
- ・出張ワークショップ
企画(コンテンツ)として提案(エカイエ、スワンバーカー、etc)

制作・販売事業

- ・インターネット販売
手作りショッピングサイトへ出品(tetote、クリエーコ、etc)
- ・制作オーダー
仲間、友人、アマーパログ等から展開

損益計画(月次)

単位:千円

	開業当初	軌道後	損益
売上高(定期)	330	600	開業当初 #1,500 × 10冊 × 11日 軌道後 #1,500 × 20冊 × 20日
売上高(不定期)	10	20	オーダー販売、副資材販売等
売上原価	66	124	材料費 売上高 × 20%
売上総利益	272	456	売上高 - 売上原価
経費			
人件費	280	250	前回は出張準備のみで、 繰越金によって翌月に削減
家賃	0	0	繰越金によって翌月に削減
文通費	16	20	開業当初 #1,000 × 15日 軌道後 #1,000 × 20日
通信費	3	3	添削料等
水道光熱費	1	2	オーダー品制作、準備時のみ
消耗品費	15	20	
販売促進費	15	20	パンフレット等
予備費	15	20	
合計	314	315	
利益	▲42	141	売上総利益 - 経費

おわりに

ひとと作業活動

なにもしたくないとき
 なにもできないとき
 ひとは ただ歩き
 ひとは ただ土きこむ
 ひとは ただ首に身をまかせ
 なにをしているの と聞かないで
 紙を切る サクサクと
 アートナイフで 紙を切る
 なにもしたくないから できないから
 歩き 土きこむ 首に身をまかせ
 ただ紙を切る
 ひとは 活動をしたのしみ
 ものを削り 歌い 描き 表す
 ひとは 自らが抱えない
 話し 伝え いたなみ 日々を暮らす
 ひとは 楽しみ おこなうとき
 善えたことだからに 力がよみがえる

『ひとと作業・作業活動 第2版』

ご清聴ありがとうございました。

おそらく東京で一番小さい

「コミュニティ・ガーデンカフェ きゅ庵」の6W2Hについて

府中市 桑田 厚子

- 1、WHO だれが 私と夫（来春定年予定・団塊）
- 2、WHEN いつ 今秋または来春 週2日
- 3、WHERE どこで 自宅
駅から徒歩5分、幹線道路側、道路に囲まれた高台南傾斜の住宅地、駐車場あり

- 4、WHEN だれに
ひとりで幼児の子育てをしている若いママ
これから高齢に向かうリタイア後の団塊世代
高齢者

- 5、WHY どうして・動機
核家族で孤立しているママ
の不安解消の手助け
夫を含めた団塊世代の人間
関係の希薄さと、居場所のな
さへの危機感



- 6、WHAT なにを
*子連れで周囲を気にせず
にゆっくり、リラックスでき
る場所。

子供が昼寝中、ランチやお茶を楽しめる場所。

同じ状況のママ達が共感し合い、友人を見つける場所。

*リタイア後のゆったりした生活を実感できる、豊かな空間。

血縁、地縁に囚われない、緩やかな人間関係。

- 7、HOW どうやって・・・付加価値のある空間の提供・・・

*自然との係わりで、リラックス（果樹の収穫、花見、紅葉）

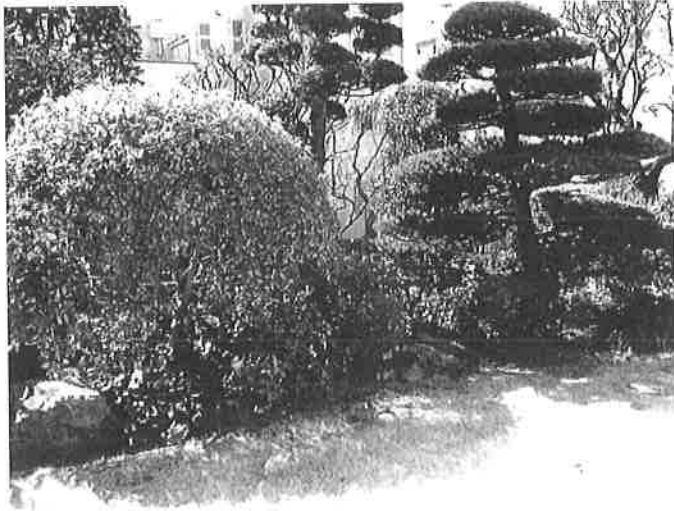
*非日常的（生活感のない）空間での飲食

上質な器での飲食の提供

安心、新鮮な食材を使った季節を感じるメニュー

緑を眺めながらの、ハンドドリップコーヒー

花・香り・オルゴール等 リラクゼーションアイテム



8、HOW MACH いくらで

*開業資金 約60万円

*サービス提供価格

ボランティア料金

コーヒー200円

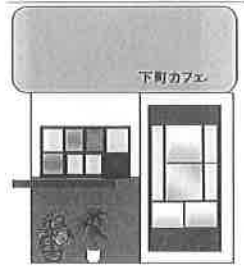
ワンコインランチ



<最終目標>

ママ達も、高齢者も「カフェ・きゅ庵」に来る事でリラックスできて、毎週1回行きたい場所となり、そしてここから新たなネットワークが広がれば、更に新しい活動に発展していくと考えています。

下町カフェ立ち上げプロジェクト



葛飾区市民活動支援センター



平成23年1月四つ木茶屋



四つ木の個人宅を借りて
コミュニティ・カフェを半日営業

一番人気はエチオピアカレー



500円

手作りケーキは200円

1日で70人のお客 4万円の売り上げ



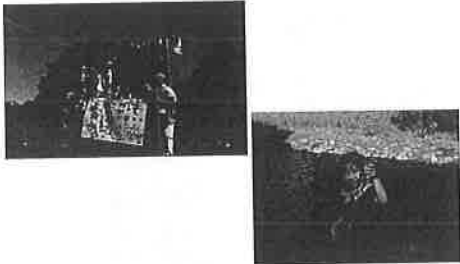
しかし、継続的に場所を借りることは出来なかった。

たまり場カフェ 平成23年11月～



月に1回センターで
胡弓の演奏など
地域の人の特技発表

そこから新しい活動も・・・



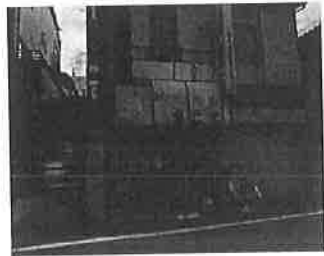
平成24年8月 相馬から被災児12人を葛飾に招待

水元公園で 思いっきり遊ぶ

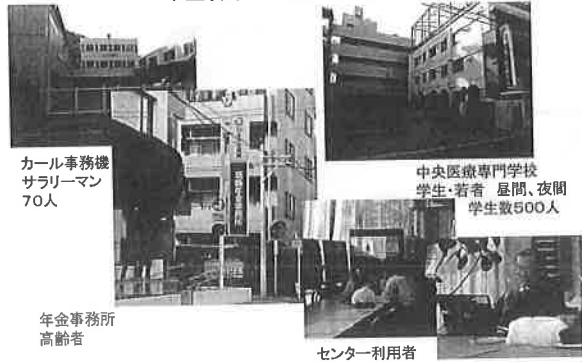


水に入ってオタマジャクシを手づかみで・・・

センター近くの居酒屋「まこと」を改装して・・・格安の家賃で・・・



近隣にあるもの



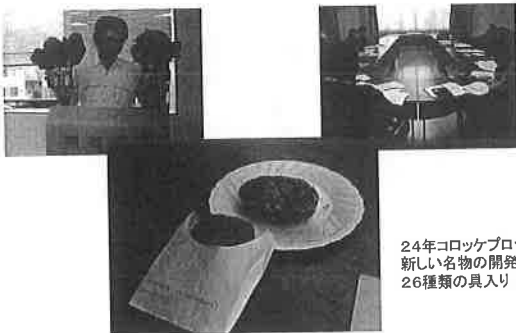
カール事務機
サラリーマン
70人

中央医療専門学校
学生・若者 昼間、夜間
学生数500人

年金事務所
高齢者

センター利用者

スター商品は葛飾の小松菜を使った コロツケ



24年コロツケプロジェクトで
新しい名物の開発
26種類の具入り！！

資金計画

- ・ ランチ、テイクアウト、弁当等屋は計13,400円
- ・ ハイボール、つまみなど夜は1000円×10人
- ・ 手仕事カフェ、講座、棚ショップ等計64,000円
- ・ 設備資金3,830,000円
- ・ 運転資金2,337,000円 計6,167,000円
- ・ 自己資金 200万円 助成金100万円
金融公庫 150万円 私募債 166万7,000円

コミュニティカフェプラン

2013年3月10日(日)

第1期生教育チーム 山崎恵子

1、なぜコミュニティカフェ開設講座に参加したか

- ・もっと人と人がかかわれる場をつくりたい
- ・生涯学習の場をつくりたい
- ・文化の発信基地になりたい
- ・ゆったりくつろげる場をつくりたい
- ・手作りの安心安全な食事を提供したい

2012年8月から場所探しをしていた

2012年10月コミュニティカフェ開設講座が開始された

2、日野市の状況(人口178,697人 2013年2月現在)

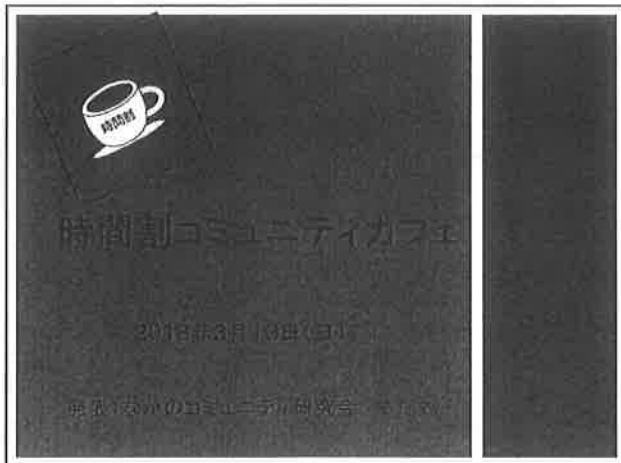
平成19年度からは、見守り支援ネットワークの追加機能の一つとして、高齢者が誰でもふらっと立ち寄れる場所として「ふれあい交流型」の立ち上げ・支援をおこなっています。

平成20年度には要綱を制定し、開催頻度などの活動状況に応じて「ふれあい交流拠点」と「ふれあい交流活動」の2通りに分けて、補助金の交付等の支援をおこなっています。現在、支援をしている団体は以下のとおりです。

- ・ 百草団地ふれあいサロン 百草999番地 百草団地ショッピングセンター内
- ・ よりみちさくら 多摩平二丁目6番地の1 多摩平の森さくら集会所内
- ・ 南平ふれあいサロン 南平七丁目16番地の14
- ・ 南新井ふれあいサロン 新井650番地の2
- ・ 談話室ひなたぼっこ 大坂上四丁目20番地の18

3、具体的プラン

- ・ 目的：・平山地区とその周辺の住民が自分らしく、閉じこもらず、孤立することなく生き生きと暮らせるようにする。



はじめに

コミュニティカフェ開設講座の第1期、第2期を受講して、新しい仲間ができました。その仲間達と考え出したのが『時間割カフェ』です。

1期の講座では、野方地区の大新横丁商店街を想定して計画をたて、発表をしました。

2期の講座では、弥生町地区の川島商店街に提案する計画を基に発表をしました。

今日は、その2つをあわせて発表をしたいと思います。
なかのコミュニティ研究会 てたて

◆コンセプト・他にはない特徴

「時間割カフェ」とは?
【コンセプト】

- × カフェ≠飲食を提供する場
- みんなのやりたい事ができる、学べる、交流できる。新しいつながりが生まれる場所。

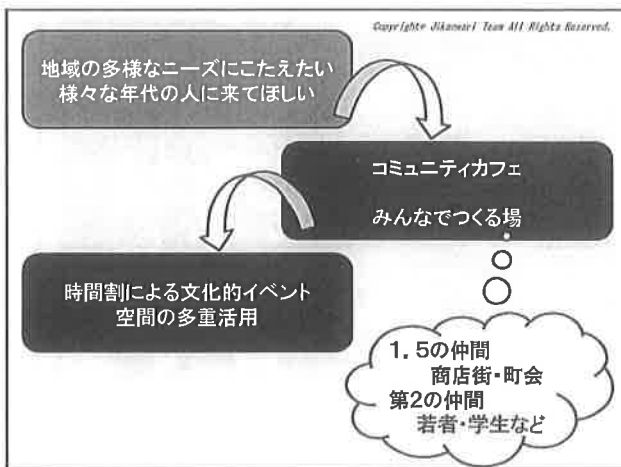
【他にはない特徴】

- ① 学校の時間割のようにコマにわけすることで、1つのスペースを有効的に使える。
- ② 朝・昼・夕方・夜や曜日別に活動をわけることで、様々な世代やニーズに合わせた活動ができる。
- ③ 活動したい人が、主役(講師やスタッフ)になって活躍することができる。

★時間割スケジュール(例) Copyright Jikamori Team All Rights Reserved.

曜日	事業名		
	①9:00-12:00	②14:00-17:00	③18:00-22:00
月	若返り体操	中国語講座	Wine Bar
火	えほんの時間	昔遊び教室	GameTime
水	クラフト教室	コーラス部	Wine&Music
木	親子ふれあい遊び	てづくりタイム	芸人ライブ
金	シニアPC教室	コミカフェタイム	デコシール
土	イベント	イベント	ソーブカーピング
日	イベント	イベント	イベント

イベント例 法律相談・健康相談、朗読劇、コーヒーの淹れ方、朝市出店、商店街をつかったフィールドワーク、商店主とのコラボ企画 など



◆動機・目的・ミッション

動機(きっかけ)

- ・「時間割カフェ」を拠点とした地元で根差したコミュニティの場所を作りたい。

目的(解決したいこと)

- ・大型スーパーができたり、住宅の解体に伴い商店街を利用する人が減少、売上も減っている。
- ⇒ 「時間割カフェ」のコンテンツを使い、商店街の存在や魅力をPRし、新しい人達が商店街を訪れるきっかけを作り、川島商店街、中野区を元気にしたい!

理想の状態

- ・「時間割カフェ」が街の拠点になり、色々な人が利用する場所になる。
- ・今まで商店街を利用していなかった人達が訪れる。
- ・商店街に新しい顧客がくるチャンスが生まれる。
- ・商店街が活性化される。

Copyright © Jikanwari Team All Rights Reserved.

利用者

商店街

てたて

♪ みんながHAPPY♪ になる為に…

「てたて」は「時間割カフェ」を提案します！

①「時間割カフェ」のコンテンツを使い、様々な世代やニーズに応じたワークショップ、講座、イベントをやり、いろいろな形で集客をします！

②今まで商店街に来ていた人はもちろん、普段来たことのない人達が商店街を訪れるきっかけを作ります！

Mission!!

利用者は？

商店街を訪れる人の割合

区内や区外、他地域の人にアピールする

チャンス!!

70% 弥生町周辺住民

20% 中高年世帯

10% 子育て世帯

若者単身者ほか

◆ 来た人が得られるもの
来る人が求めるもの

得られるもの	求めるもの
<input type="checkbox"/> 自分の知識を高められる。	<input type="checkbox"/> 自分のやりたいことができる。
<input type="checkbox"/> 自分を表現できる。	<input type="checkbox"/> 学びたいことができる。
<input type="checkbox"/> 人との出逢い	<input type="checkbox"/> 新たな交流がある。
<input type="checkbox"/> 商店街との出逢い	<input type="checkbox"/> 自己実現・自己表現ができる。
<input type="checkbox"/> 講師、スタッフとしての活躍	

◆ 場所・立地・条件・店舗計画

場 所: 中野区弥生町3-14-6
川島商店街振興組合1F (通称:コスモ会館)

立 地: 川島商店街入口より100m程度歩く、商店街の中にある建物。2Fは振興組合事務所

最 寄: 東京メトロ丸の内線 中野新橋駅より徒歩7~8分

条 件: 福引き、祭りなど商店街の行事で使う時は、そちらが優先になる。

商店街: 100店舗近くの店が集まった商店街で、TVドラマのロケなどでも使われている。
毎月2日・16日は特売日、月末の日曜日には朝市を開催している。

◆ 専任スタッフ

その前に… 「てたて」には、こんなメンバーがいます！

【講師】
シルバークラフト、フラワー小物、ソーパークーピング、デコシール、ダンス講師、まちづくり、スキー指導員、音楽療法、リトミック、応急手当普及員

【専門職有資格者】
食品衛生管理士、製菓衛生士、社会保険労務士、一級建築士、保育士、幼稚園教諭、ホームヘルパー

【趣味・特技、好きなもの】
アマチュア落語家、Web作業、音楽、ワイン、コーヒー、ものづくり、アウトドア、お菓子作り、レクリエーションなどなど…

もちろん、1人何役も兼ねてますが、だからこそ「時間割」のコンテンツができるんです！

Copyright © Jikanwari Team All Rights Reserved.

分類	名 称(目的・趣向)	内 容	主な対象
TOYOKO	全国健康講座(1000)	少人数で楽しむ健康講座	作業中
	ソーパークーピング(1000)	技術を駆使して作る工作	
	デコシール(1000)	誰もが楽しめるデコ	
	シルバークラフト作り(1000)	キッズから大人まで楽しめる	どなたでも
MIDLAND	ヨガ・ヨガ(1000)	ヨガを楽しく学ぶ	中高年
	おはようから(1000)	指で触れる楽しい工作作り	
	音楽や健康(1000)	音楽と健康で楽しむ	
	コーラス(1000)	みんなで歌おう！	
MIDLAND	ふれあい遊び(1000)	親子ふれあい遊びの時間	子育て中の親子
	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせ	
	習字体験	みんなでやるから楽しい習字しよう！	小学生以上
	ボードゲーム遊び	みんなで楽しむボードゲーム	
MIDLAND	舞踊会(1000)	舞踊会を楽しもう！	どなたでも
	相談会(500)	中野区民の悩み相談	
	ボードゲームナイト	ボードゲーム大会を開催しよう！	若者世代
	法律相談・健康相談(500)	弁護士による法律相談	
MIDLAND	読書会	読書会を楽しもう！	どなたでも
	お祭りなどの出店	お祭りなど出店に活用します	
	キッズワークショップ(1000)	キッズワークショップを開催しよう！	
	コミュニティカフェ(仮称)「てたて」	おいしいハンドドリップのコーヒーを飲みませんか？もちろん、コーヒー以外も用意しています。笑顔で立ち回れるカフェです	どなたでも

いずれは…こんな講座をしていきたいと思っています！

① 店主さんが講師になって行う講座の提案と企画運営

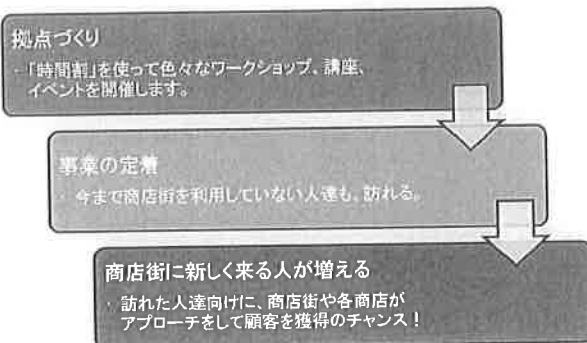
- 例) そば屋さんが教える「そば打ち講座」
- 自転車屋さんの「自転車点検・相談講座」
- お茶屋さんの「おいしい日本茶淹れ方講座」
- やおやさんの「旬な野菜のお料理講座」
- 乾物屋さんの「ダシの取り方講座」
- 和菓子屋さんの「練りきり作り講座」
- さかな屋さんの「三枚おろし講座」
- 古着屋さんの「リメイク講座」
- 整体師さんの「かんたんツボ講座」

② 商店街全体を使ったイベントの仕掛け

- 例) 同じ趣味を持つ人が集まる「趣味街コン」
- 商店街を使ったフィールドゲーム、まちづくり講座

③ 地域や区内の特技を持った人が講師になれる講座

展開イメージ

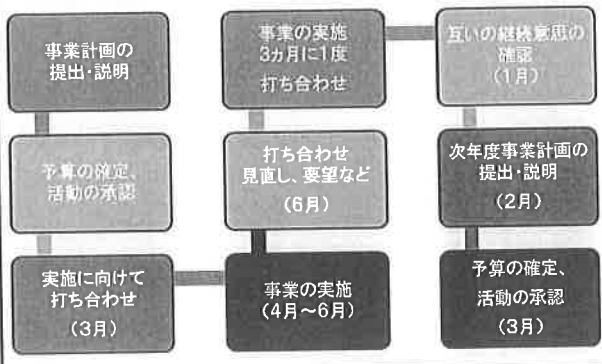


共有事項

商店街と「てたて」双方の「メリット」と「負担するもの」を確認する。

	負担するもの	メリット
商店街	場所の提供 (光熱費を含む)	新規顧客開拓の 機会・きっかけを 得られる。
てたて	企画・運営 (人件費を含む)	事業化に向けた トライアル活動

事業実施イメージ



◆主な資金計画案

事業名	開始時期	収入		支出	
		単価	月間	項目	費用
まちなかサロン	10/月	¥250/1席	月1	¥2,000/月 運営	-/月
朝市	200/月	¥100/1席	月1	¥20,000/月 水運光熱費	-/月
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日 通信費(電話、ネット)	¥5,000/月
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日 広告費	¥2,500/月
お茶屋	10名/日	¥2,000/日	月4	¥2,000/月 明細記入	¥5,000/月
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日 明細記入	¥2,500/月
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日 明細記入	¥2,000/月
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日 明細記入	¥5,000/月
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日 明細記入	¥10,000/月
お茶屋	13名/日	¥2,500/日	月4	¥10,400/月 人件費(臨時スタッフ)	¥0/月
お茶屋				人件費(専任スタッフ)	¥0/月
収入計			¥11,600/月	支出計	¥24,500/月

※ 試算額として収入を計算する ¥24,900/月

※ 備考 各曜日営業は2013年4月～9月の実施予定を元に算出。
収入はまちなかサロンの使用料(※200～300)を元に各イベントの定員人数で算出しています。

事業名	開始時期	収入				支出	
		単価		月間		項目	費用
		単価	月間	単価	月間		
まちなかサロン	10/月	¥200/1席	月1	¥4,000/月	客費	-/月	
朝市	200/月	¥100/1席	月1	¥20,000/月	水運光熱費	-/月	
臨時出店	300/月	¥100/1席	毎月1	¥30,000/月	通信費(電話、ネット)	¥5,000/月	
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日	広告費	¥2,500/月	
お茶屋	10名/日	¥2,000/日	月4	¥8,000/月	明細記入	¥5,000/月	
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日	明細記入	¥2,500/月	
お茶屋	10名/日	¥2,000/日	月4	¥8,000/月	明細記入	¥2,000/月	
お茶屋	0名/日	-/日	-/日	-/日	明細記入	¥5,000/月	
お茶屋	20名/日	¥2,400/日	月4	¥9,600/月	明細記入	¥10,000/月	
お茶屋	25名/日	¥2,000/日	月4	¥8,000/月	明細記入	¥10,000/月	
収入計				¥70,600/月	支出計	¥61,000/月	

※ 備考 収入はまちなかサロンの使用料(※200～300)を元に各イベントの定員人数で算出しています。

第3期 コミュニティカフェ開設講座

対話を通して学ぶ〈場づくり〉の技法

主任講師
コーディネーター **坂倉杏介氏**



慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師、三田の家LLP代表、NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事。地域コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを、個人とコミュニティの成長における「場」の動きに注目して研究。キャンパス外の新たな学び場「三田の家」、地域コミュニティの拠点「芝の家」の運営を軸に、「横浜トリエンナーレ2005」、「Ars Electronica 2011」など美術展への参加、大学内外での教育活動を通じて、自己や他者への感受性・関係性をひろく場づくりを実践中。

講師(第2回担当) **広石拓司氏**



大阪市生まれ。2001年からNPO法人ETICにて社会起業家の育成・支援に取り組む。主宰する「社会起業プランニング講座」には全国から3,000人以上が参加。2008年5月に株式会社エンパブリックを設立し、代表取締役。知恵と力を持ち寄る場づくり、事業が生まれるコミュニティづくりのためのプログラム開発、担い手育成に取り組む。慶應義塾大学SFCなどの非常勤講師も務める。エンパブリック <http://emppublic.jp/> エンパブリック根津スタジオ <http://nez-studio.jp/>

講師(第3回担当) **ひと☆いき カフェ エカイエ オーナー**



ギャラリー、まちづくり拠点の機能を併せ持つ、中野区上高田にある日替わりカフェ。毎週水曜夜の「まちづくりカフェ」では、多様な人々が交流することでアイデアや企画が生まれ具現化されている。2012年は、ワークショップ系イベントを中心に12回開催。以下は、2011年9月からの4人の共同オーナー
●丸山伊太郎氏：中野駅北口で32年続く元祖無国籍カフェ「カルマ」を経営。他にカフェ3店の共同オーナー ●中村信子氏：人形劇俳優、美術家。中野区内のNPOで子どもの居場所事業を実施 ●鈴木純子氏：オンリーワンビジネスをプロデュースする株式会社アプロディー社長、一般社団法人日本・ファッション協会代表理事 ●前田量子氏：管理栄養士。月～水曜のカフェ担当

受講料 **{ 3,000円 }** { 全5日分、資料代含む。交通費、飲食費は別途自己負担 }

定員 **{ 20人 }** { ※応募者多数の場合は、作文等で選考。中野区外の方も受講できますが、都外の方はお問い合わせください。 }

主催 **{ 協議体 チーム中野 }** 事務局 (WAC内) ☎03-5405-1501
Facebook ページ team.nakano1



受講生同士の対話



芝の家の中

コミュニティカフェは、多様な人々が出会い、関わりあう場です。こうした場を、どのようにしたらつくることができるでしょうか。本講座では、参加者同士の対話や「芝の家」での体験を通じて「人と人との関わり」を深く考え、〈場づくり〉の技法をともに学んでいきます。

※本講座は、中野区、中野区社会福祉協議会、長寿社会文化協会(WAC)、中野区内NPO等で構成する「協議体チーム中野」が、東京都新しい公共支援事業の助成を受けて実施する、コミュニティカフェを開きたい団体、個人に向けた開設講座です。

カリキュラム(予定)

回	日程	場所
1	2月9日(土)	中野区勤労福祉会館研修室
	対話の場(コミュニティカフェ)って何だろう? ●対話の時間1:対話の導入 ●講義:コミュニティカフェとは? ●対話の時間2:ワールドカフェ「私の実現したい対話の場とは?」	
2	2月24日(日)	スマイルなかの会議室AB
	想いをカタチにしていく方法 ●講義:想いをカタチにしていく方法 ●講義:芝の家のつくり方 ●対話の時間3:何のためのコミュニティカフェ? 大切にすることは何?	
3	3月2日(土)	中野区役所9階第11会議室
	他人のなかの(私)に出会う ●事例紹介:エカイエの人々とその活動 ●対話の時間4:芝の家を振り返って ●対話の時間5:持ち寄ることの豊かさを感じる	
4	3月23日(土)	中野区勤労福祉会館研修室
	明日からの未来をつくる ●対話の時間6:グループフィードバック ●講義:アイデアの技法「創造的矛盾とアウトカム構想力」 ●対話の時間7:ストーリーづくり「人が集まることで生まれる価値とは?」	
現場体験	コミュニティカフェ体験 2月11日(月)～3月1日(金)までの期間中に1日 ●芝の家の1日体験 ●地域コミュニティの拠点「芝の家」(港区)で、コミュニティカフェの現場を1日体験します。	
	※時間は10～16時(現場体験は別途)。 ※原則として、全5日を通して受講していただきます。	

受講申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記Facebookページに設けた受講申し込みフォームに入力し、送信してください。

※ホームページからの申し込みができない方は、「コミュニティカフェ開設講座(第3期)受講希望」と明記の上、下記の項目および作文「受講動機とコミュニティカフェに対する想い」(400字程度)を、FAX: 03-5405-1502 までお送りください。

※申し込み期限:1月31日(木)

(ふりがな)
お名前 所属・職業 (具体的に) 年齢 歳 E-mail

TEL ご自宅住所 〒

受講の可否 (やむを得ず欠席する日があったら、×を付ける) 2月9日 2月24日 3月2日 3月23日

チラシを入手した場所・人

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第
30
回

コミュニティカフェ研究会

テーマ 事業ミックスにより、持続できる居場所づくり

「歳をとっても自分の家で暮らすには、健康を支える食事と生きがいと“ご近所さん”は欠かせない。それらが全部手に入る居場所があったらいいね」。近所の女友達3人の茶飲み話から始まった「レストランサラ」。開業前に半年間開いた食事会で、高齢者の好みや地域についてリサーチし、経営の方針を探りました。現在では配食サービスも実施しています。その後、空き店舗活用推進事業の助成金を得て多店舗化し、講座やイベントを行う「ひろばサラ」を開き、新たな収益事業として始めた「デイサービスサラ」も、個別対応のケアが好評を得ています。事業ミックスにより、持続できる居場所づくりを進めている紀平容子さんにお話しいただきます。

日時	2013年 1月28日(月)	
	19:00~21:00(18:30開場)	
会場	中野区役所7階会議室 JR中野駅前 ※サンプラザ側入口からお入りください。	
参加費	500円 ※資料代含む	定員 60人 ※中野区外の方も参加できます。

講師 紀平容子氏



神戸市出身。地方公務員を経て、フリーライター。1995年の阪神・淡路大震災がコミュニティを考えるきっかけになり、98年に地域の居場所づくりをめざす「高齢社会の食と職を考えるチャンブルーの会」を立ち上げる。99年、地域の女性たちと、商店街の空き店舗で「レストランサラ」を開店。現在、「デイサービスサラ」「ひろばサラ」を含め3店舗を運営。2000年にNPO法人格取得後、代表理事。



主催 協議体チーム中野

① 中野区 地域支えあい推進室	② 公益社団法人 長寿社会文化協会(WAC)
③ 社会福祉法人 中野区社会福祉協議会	④ NPO法人 中野の和
⑤ NPO法人 カサ デ オリーバ	⑥ NPO法人 障害者の就労を進める会 そら
⑦ 任意団体 ドロップインほっとほっと	

事務局(WAC内) ☎03-5405-1501
Facebookページ team.nakano1

参加申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記 Facebook ページに設けた参加申し込みフォームに入力し、送信してください。

※ホームページからの申し込みができない方は、下記項目を FAX：03-5405-1502 または電話：03-5405-1501 までお知らせください(空席がある場合、当日の飛び入り参加も可能)。

第30回コミュニティカフェ研究会【1月28日(月)】に参加します。

(ふりがな)

お名前	所属・職業	年齢	歳	E-mail
TEL	ご住所 〒			
一時保育(23日まで申し込み、定員 10 人)・子ども氏名	男・女	歳	カ月	備考

チラシを入手した場所・人

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第3期コミュニティカフェ開設講座

講義&ワークショップ プログラム (案)

2/9 (土) 対話の場 (コミュニティカフェ) って何だろう？

AM

- 1000 時 ○講座のオリエンテーション
- ・ 講座の流れと狙い、芝の家体験の案内
 - ・ 自分たちでつくる場、自分が見つかる／考える場、コミュニケーション作法、お茶お菓子 OK
- いま・ここに ーチェックインと聴き合う時間ー
- ・ いまどんな感じ？／普段の自分は？ ・ どんな期待と課題を持っている？
- 私の大切なもの、私の居場所 ーグループ対話の導入ー
- ※開始前もしくは昼休みに名札づくり

PM

- 1300 時 ○ミニ講義「コミュニティカフェとは？」
- ・ 社会的要請 ・ 芝の家ほか事例紹介 ・ やりたいのはカフェ？=本質・本当のことを考える
- 1400 時 ○ワールドカフェ「私の実現したい対話の場 (コミュニティカフェ) とは？」
- 1530 時 ○まとめ (ミニ解説)
- ・ 場づくりの視点からの振り返り ・ 聴きあうこと／フィードバックの重要性
- 1600 時 終了
- ※芝の家体験の案内／スケジューリング

2/24 (日) 想いをカタチにしていく方法

AM

- 1000 時 ○広石拓司さん講義「想いをカタチにしていく方法」
- ・ コミュニティか？ カフェか？ ・ 実現のためのマインドとスキル
 - ・ ホームパーティ：居場所と出番の設計 ・ 社会的企業の成功要因とは
- 講義を聴いて
- ・ 坂倉との応答 →3人でシェア →全体でのディスカッション

PM

- 1300 時 ○ミニ講義「芝の家のつくり方」(坂倉)
- ・ カフェはコミュニティのなかに ・ 素人の場づくり：その場にいる人をそのまま大切にする芝の家
- 講義を聴いて
- ・ 広石さんによるコメント／解説 →3人でシェア →全体でのディスカッション
- 1430 時 ○個人で・・・「何のためにコミュニティカフェを？」「何を大切にしなければいけないか？」
- ・ 各自フリップ (画用紙) に記入
- 1500 時 ○全体ディスカッション
- ・ フリップの内容をシェアしながら
- 1600 時 終了

3/2 (土) 他人のなかの〈私〉に出会う

AM

- 1000 時 ○中野区の事例紹介『「エカイエ」の方々と』 ※講師調整中、2-3人を予定
・「エカイエ」とは ・持ち寄り型の活動 ・やりたいことをやって元気になる ・価値観の共有
- 1030 時 ○ミニパネルディスカッション
・「エカイエ」の方々と坂倉によるディスカッション
- 1100 時 ○講義を聴いて
・3人でシェア →全体でのディスカッション

PM

- 1300 時 ○芝の家を振り返って「芝の家で、私は・・・」
・3人でシェア →ワンサークルでシェア
- 1400 時 ○個人で・・・
・「本当にやりたいことは何か?」「私は何に喜びを感じるのか?」「私の財産は?」を考え、記入
- 1430 時 ○「この3人で何か?」→「この5人で何か?」
・持ち寄ってできるアイデアを考える:一人でやらない/他者を受け入れるエクササイズ
- 1530 時 ○まとめ(ミニ解説)
・自分らしさを持ち寄ることの豊かさ ・面識の重要性 ・協働の技術
- 1600 時 終了

3/23 (土) 明日からの未来をつくる

AM

- 1000 時 ○グループフィードバック(前回の5人グループで)
・メンバーの「働き」を振り返る →一人ずつフィードバック
- 1100 時 ○ミニ講義「うつわとネットワーク/創造的矛盾とアウトカム構想力」
・3人でシェア →全体でのディスカッション

PM

- 1300 時 ○個人で・・・「ストーリーづくり:人が集まって生まれる価値とは?」
・それぞれの想いを「アウトプット」と「アウトカム」から描き直し、フリップに記入
- 1430 時 ○まとめ「明日から私はどうやって未来をつくるか」
・ワンサークル/トーキングスティックで共有
- 1600 時 終了

プログラム構成

- 講義&ワークショップ 5時間×4日間=20時間
- 地域コミュニティの現場体験 7時間(内2時間はチェックインとリフレクション)×1日間=7時間
- 合計:27時間

「話題」(写真3)
 ◎コミュニティカフェに関心
 ||シニアの居場所づくり活動||

93行



シニアや子育てママが
 ちよつと一息つける場所
 となるコミュニティカ
 フェ。社会問題解決型の
 ソーシャルビジネスとし
 て、独居高齢者の居場所
 づくりのほか、障害者の
 就労支援、多世代交流な
 ど多様な取り組みがしま
 っているという。また、
 地域づくりやボランティア
 ア活動に取り組んできた
 シニア世代の関心も集め
 ている。
 コミュニティーカフェ
 の主催者と関心を持つ人
 の交流などを支援してき
 た長寿社会文化協会(W
 AC)は中野区などと協
 働で昨年9月から今年3
 月にかけて開設講座を開
 催。受講生の成果発表会
 が3月に東京都内で開か
 れた。住民が気怪に立ち

S130402JTA318 (2048x1370)

JTA327 JPE51-1 (P)

①講座の成果発表会でコミュニ
 ティーカフェのさまざまなアイ
 デアが披露された=東京都中野
 区

寄れるアートスペース、
 ショップや商店街振興組
 合の建物を借りた市民交
 流スペースなど、受講生
 のさまざまなプランやア
 イデアが披露された。
 自宅の庭を利用した子
 育てママや団塊世代の子
 ニアが立ち寄れるカフェ
 の計画を発表したのは受
 講生の東京都府中市の桑
 田厚子さん(60)。子育
 て支援などのボランティア
 ア歴10年で、来年に夫が
 定年になることもあり、
 「自分の体が元気なうち
 に地元で恩返ししたい」
 と地域づくりについて考
 えるようになった。週2
 回開催し、1回を子育て
 ママ、もう1回をシニア
 向けにする計画。「地域
 のネットワーキングが

「洗足カフェ」を東京都
 目黒区で運営中。「自己
 資金で店舗を借りるなど
 前に、大きな負担を背負う
 エラーを重ねて経験を積
 む機会や場所があるとい
 ひ。それは工夫すれば地
 域で見つけられる。経験
 を積んだ人が増えればネ
 ットワークが広がり、地
 域にコミュニティカフェ
 が根付いていくことに
 つながるはず」と話して
 いる。
 (了)



S130402JTA318 (2048x1370)

JTA327 JPE51-2 (P)

②自宅の庭を使ったコミュニ
 ティーカフェを計画中の桑田厚子
 さん=東京都府中市

「役が必要」と指摘する
 。協力する池畑さんは「
 独居高齢者が憩える場
 所にしたい」と話した。
 地域の高齢者支援に詳
 しい東大大学院新領域創
 成科学研究科特任研究員
 の和田夏子さんは、関心
 を持つ人なら日替わりオ
 ーナーとして参加できる



S130402JTA318 (2048x1462)

JTA327 JPE51-3 (P)

③パソコン教室を兼ねたコミュ
 ティーカフェを計画する海老
 塚良吉さん(手前右)と池畑英
 雄さん(同左)=千葉県船橋市

「コミュニティカフェを 始めませんか」



コミュニティカフェ開設講座説明会

地域の人が集まって、飲食を楽しみながら、子育てや高齢者、障害者の支援、まちづくりなどに取り組む場、「コミュニティカフェ」。最近、全国的に増えており、中野区内にも開設されています。

中野区では区、社会福祉協議会、長寿社会文化協会(WAC)、区内NPO等と「協議体チーム中野」を構成し、コミュニティカフェを開きたい団体、個人等を支援していきます。来年3月まで開く開設講座のプレイベントとして、本説明会を開催します。

内容

第1部 講演「コミュニティカフェを始めませんか」



久田邦明氏

office chadoh[茶堂事務所] 主宰、評論家、神奈川大学講師
地域文化論、青少年教育論専攻。神奈川大学や東京学芸大学で生涯学習関連科目を担当。全国各地の青少年育成関係者に呼ばれて地域の居場所による地域社会の再生を提案している。著書に『生涯学習論—大人のための教育入門』『教える思想』『子どもと若者の居場所』(編著)など。

第2部 中野区内外のコミュニティカフェ事例紹介

- 中川弥生子氏 (中央5丁目、キッチンそら)
- 山本祐也氏 (吉祥寺KISSCAFEでのコミュニティカフェや堂楽サロンを運営)
- 柳田好史氏 (地域サロン「みんなのえんがわ池袋」)

第3部 コミュニティカフェ開設講座説明

日時

2012年7月28日(土)
14:00~16:00
(13:30開場)

会場

中野区役所7階会議室
JR中野駅前 ※当日、施設工事のため、区役所駐車場休業

参加費

無料

定員

150人

※中野区外の方も参加できます。

主催

協議体チーム中野

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① 中野区地域
支えあい推進室 | ② 公益社団法人
長寿社会文化協会 |
| ③ 社会福祉法人
中野区社会福祉協議会 | ④ NPO法人
中野の和 |
| ⑤ NPO法人
カサ デ オリーバ | ⑥ NPO法人
障害者の就労を進める会 そら |
| ⑦ 任意団体
ドロップインほっとほっと | 事務局WAC内
☎03-5405-1501 |

コミュニティカフェとは? (WACによる定義)

- ① 人と人が交差する自由な空間
- ② あらゆる情報の交差点となる場所
- ③ 人的ネットワークを広げられる場所
- ④ もっと素敵な生き方にチャレンジするきっかけになる場所

参加申し込み

下記項目を team.nakano1@gmail.com または FAX : 03-5405-1502 までお送りください(空席がある場合、当日の飛び入り参加も可能)。コミュニティカフェ開設講座説明会【7月28日(土)】に参加します。

お名前 _____ 所属 _____ 年齢 _____ 歳 E-mail _____

TEL _____ ご住所 〒 _____

一時保育(23日まで申し込み、定員10名)・子ども氏名 _____ 男・女 _____ 歳 _____ 力月 備考 _____

チラシを入手した場所・人 _____ 開設講座の希望時間： 平日夜間 ・ 土曜午前~午後(集中講座)

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

この研究会は、東京都新しい公共支援事業の助成を受けて実施します。

第
26
回

コミュニティカフェ研究会

テーマ 新しい「公共の場」としてのコミュニティカフェ

2008年12月から長寿社会文化協会(WAC)が開いてきたコミュニティカフェ研究会は今年度、「協議体チーム中野」の主催で行います。通算26回目となる今回は、東京都新しい公共支援事業の助成を受けて10月から行う「コミュニティカフェ開設講座」を前にして、コミュニティカフェを新しい「公共の場」と位置付けています。自らが住む横浜市の港南台タウンカフェなどの活動に関わっている法政大学教授・名和田是彦氏に、居場所づくりや交流拠点づくりの広がり、公共空間としてのコミュニティカフェの役割、拠点の運営課題、地元企業や自治会、商店街、NPOとの連携などについて語っていただきます。



なわただしひこ
講師 名和田是彦氏



1955年山口県生まれ。東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。横浜市立大学、東京都立大学を経て、2005年4月から法政大学法学部教授。専攻は公共哲学、コミュニティ論。横浜市を中心にコミュニティと住民参加の実態を研究するとともに、自らが市民活動団体「まちづくりフォーラム港南」の代表として、まちづくり活動を実践している。第29次地方制度調査会委員、総務省「コミュニティ組織のガバナンスのあり方に関する研究会」座長などを務める。主な著書に「コミュニティの法理論」(創文社)など。

日時	2012年 9月22日(土祝)	
	14:00~16:00(13:30開場)	
会場	中野区役所9階会議室 JR中野駅前 ※休日につき、サンプラザ側入口からお入りください。	
参加費	500円 ※資料代含む	定員 100人 ※中野区外の方も参加できます。



港南台タウンカフェ(横浜市港南区)

ふらっとステーション・ドリーム
(横浜市戸塚区)



主催 協議体チーム中野

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① 中野区地域
支えあい推進室 | ② 公益社団法人
長寿社会文化協会 |
| ③ 社会福祉法人
中野区社会福祉協議会 | ④ NPO法人
中野の和 |
| ⑤ NPO法人
カサ デ オリーバ | ⑥ NPO法人
障害者の就労を進める会 そら |
| ⑦ 任意団体
ドロップインほっとほっと | |

事務局(WAC内) ☎03-5405-1501

参加申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)上に設けた参加申し込みフォームを入力し、送信してください。

この方法がとれない方のみ、下記項目を FAX : 03-5405-1502 または電話 : 03-5405-1501 までお知らせください。

(空席がある場合、当日の飛び入り参加も可能)

第26回コミュニティカフェ研究会【9月22日(土祝)】に参加します。

(ふりがな)

お名前 所属・職業 年齢 歳 E-mail

TEL ご住所 〒

一時保育(18日まで申し込み、定員10名)・子ども氏名 男・女 歳 力月 備考

チラシを入手した場所・人

※お預かりした個人情報、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

掲示期間9月22日 / 中野区広報担当調整済

「コミュニティカフェ」開設への連続講座始める

WACはここ数年、コミュニティカフェの普及に力を入れている。日本財団の助成を得て2009年度から3年間、「全国のコミュニティカフェの事例研究 ネットワーク化と交流」事業を手掛けたのに続き、今年度はコミュニティカフェの開設を目指す連続講座などを始めた。

東京都から「東京都新しい公共支援事業」として546万円の助成金を得たプロジェクトである。「新しい公共」は、地域問題を解決するために行政だけでなく、市民事業者の参画を仰ぐというもの。

東京都中野区内で、NPOなどにコミュニティカフェの開設を促す。事業主体は「協議体チーム中野」。中野区（担当は地域支えあい推進室）や中野区社会福祉協議会、中野区内の3つのNPO法人など6団体にWACが呼び掛けてつ

協議体チーム中野

- 中野区 地域支えあい推進室
- 公益社団法人 長野社会文化協会(WAC)
- 社会福祉法人 中野区社会福祉協議会
- NPO法人 中野の和
- NPO法人 カサデオリーバ
- NPO法人 障害者の就労を進める会 そら
- 任意団体 ドロップインほっとほっと

・コミュニティカフェ開設講座
・コミュニティカフェ研究会
・設立・運営支援(個別相談)

支援

コミュニティカフェを開きたいNPO等

事務局をWACに置き、開設講座や研究会、個別相談などに取り組み出した。その第1弾が、7月28日に中野区役所7階会議室で開いた「コミュニティカフェ開設講座説明会」である。

7月のコミュニティカフェ開設講座説明会は大盛況

中野区やWAC、「全国コミュニティカフェ・ネットワーク」(「コミュニティカフェ全国連絡会」から改称、略称は「全国コミカフェ・ネット」)のホームページなどで広報し、予想を大きく上回る約140人が集まった。

はじめに、評論家・神奈川大学講師の久田邦明さんが「コミュニティカフェを始めませんか」と題して基調講演。全国の事例を挙げながら、「コミュニティカフェは地域社会の再生につながると思う。小さい形から始めていき、暮らしを豊かで楽しいものに変えていこう」と呼びかけた。

続いて、コミュニティカフェを運営している3人が次々登壇し、開設の経緯を振り返った。

まず、中野駅近くで昨年6月に、精神障害者が働くレストランを開設した中川弥生子さん。中川さんはNPO法人「障害者の就労を進める会そら」の代表で、店名も「キッチンそら」である。

東京・中野で「新しい公共支援事業」

「普通の主婦だったが、乙武洋匡さんの『五体不満足』を読んで、家族以外の他人のためにできることがあると思った」とそもそもその動機に

「社協の有償ボランティアから始め、資格を取ってホームヘルパーとなった。そのうち、長時間働けないから就労場所がない精神障害者のために役立てばと考えました」と話す。

次に、都内吉祥寺や中野区内で「堂楽カフェ」を開いてきた山本祐也さん。「コミュニティカフェは地縁や人とのつながりをつくり、楽しく協力し合いながら運営できるカフェだ」

豊島区池袋から来た柳田好史さんは豊富な実践体験から説く。NPO法人「としまNPO推進協議会」の代表理事で地域サロン「みんなのえんがわ池袋」を運営している。

「コミュニティカフェは地域の課題を解決する場で、課題をとらえなければ長続きしない。賛同し、共感し、参画してもらうことで、地域の宝、人が集まる場になる。昼間は子ども英会話教室を行い、夜間は塾にスペースを貸して、収益源にしている」



協議体チーム中野のメンバー、「カサデオリーバ」の喫茶室

第26回コミュニティカフェ研究会を開催

WACがこれまで独自に続けてきた「コミュニティカフェ研究会」も、「新しい公共支援事業」の一環として組み込むことになり、9月22日に開いた。

第1期コミュニティカフェ開設講座

(平日は19時～21時30分まで中野区役所会議室で。土曜は午後1時に事例見学)

回	日程	内容
1	10月 2日(火)	自己紹介、参加動機の集約
2	10月 9日(火)	各地の事例紹介
3	10月20日(土)	先進事例を視察①
4	10月23日(火)	事業計画の作成法
5	10月30日(火)	地域課題の洗い出しと地域ニーズの把握法
6	11月 6日(火)	アンケート調査の整理と反映法
7	11月10日(土)	先進事例を視察②
8	11月17日(土)	先進事例を視察③
9	11月19日(月)	事業計画と運営プログラム作り
10	11月27日(火)	開催曜日、日時などの運営法の検討
11	12月 4日(火)	運営プログラム作り
12	12月11日(火)	参加者の意見発表

第2期コミュニティカフェ開設講座

(10時～16時まで中野区役所会議室、なかのZERO、見学先で)

回	日程	内容
1	11月23日(金祝)	事業コンセプトの設定
2	12月 8日(土)	現場見学から学ぶ① 「事業・サービスを考える」
3	1月12日(土)	現場見学から学ぶ② 「事業計画書を作成する①」
4	1月26日(土)	さまざまな事例から学ぶ 「事業計画書を作成する②」
5	2月 2日(土)	資金計画、損益計画を学ぶ 「事業計画書を完成する」
6	2月16日(土)	事業計画・資金計画のブラッシュアップ

講師は、コミュニティ政策や法制論が専門の法政大学法学部教授、名和田は彦さん。テーマは「新しい『公共の場』としてのコミュニティカフェ」。約70人が参加した。以下は講演要旨――

1970年代以降、コミュニティセンターや公民館が整備されたが、交流を生む施設にはならず、貸し部屋に仲間うちで集まる空間になってしまった。公園は、どんな人でも安心して時を過ごせる公共の場であるはずだった。だが、「公園デビュー」という言葉に象徴されるように、同様に、今や特定の仲間しか集まらない、閉鎖的な居心地の悪い空間だ。

仲間うちだけでない、不特定多数に開かれた空間をつくる試みが各地で始まった。それがコミュニティカフェである。

新潟市の「うちの実家」は会員制だが、来場者のことを詮索しない掟がある。人

として大事にされ、居心地よく過ごすことができるのである。ここに、はしなくも「公共」という交流拠点の本質が表れている。

私が関わっているのは横浜市の港南台タウンカフェ。そこには壁いっぽいに「小箱シヨップ」があり、近隣に住むプロ顔負けのクラフト作家が、自分の作品を公共世界に問うために並べている。

地域の行事の準備には、大学生から高校生、時には中学生という若者たちも集まる。郷土史の会といった仲間うちの集まりの隣に、公共世界が広がっているのである。

現在、自治会や町内会は弱体化してしまっただけで、不特定多数に開かれた公共空間で、担い手を発掘する最前線にあるのがコミュニティカフェである。



コミュニティカフェ開設講座が始まる

そして10月2日から、いよいよ第1期の「コミュニティカフェ開設講座」が幕を開けた。

市民シンクタンクの「株式会社ひとアソシエイト」の代表である工藤秀美さんを主任講師に招いて、ワークショップや事例見学を始めた(別表)。

受講生として応募してきたのは48人にも達した。コミュニティカフェが共感を呼び、大きな関心を集めていることがよく分かる。

受講動機やコミュニティカフェの開設プランなどで書類選考し、20人を選んだ。

中野区民が13人、その他地区から7人となった。女性13人、男性7人。最も若い25歳の男性から最年長の67歳の女性まで年齢には幅があったが、男女とも60歳前後が多い。一級建築士、保育士、学童指導員、介

護施設職員、生命保険会社営業、NPO理事、公務員など職業はさまざま。

既にコミュニティカフェを始めている人や店舗を借りて準備に入った人もいる。

講師の工藤さんは、「受講動機や実現したいことがしっかりしていないと、失敗に終わる可能性が高い。社会を変えていこうという大きな志が、コミュニティカフェの開設には欠かせないと思う」などと受講生に熱いメッセージを送る。

10月9日の第2回の講座には、地元元ケーブルテレビ「シティテレビ中野」が取材に訪れ、ニュース番組で放映した。連続講座の第2期は、11月23日から来年2月16日までの全6回(別表)。

主任講師は、NPO事業サポートセンター理事の山根真知子さん。事業計画書作りが中心のワークショップやコミュニティカフェ見学を行う。山根さんは、『コミュニティ・カフェをつくらう!』の執筆者の一人でもある。

第
28
回

コミュニティカフェ研究会

テーマ 日替わりオーナー制で広がるコミュニティカフェの可能性

「地域の人が気軽に利用できるカフェを作りたい」という共通の想いで集まった日替わりオーナーが、得意な料理や菓子でもてなす「洗足カフェ」(東京・目黒)。NPO法人南房総リパブリックが南房総と都内の二地域の交流拠点として、南房総の安心できる米や野菜を共通食材として使いながら進めているコミュニティカフェ運営活動です。洗練されたデザインのHP、ブログをはじめ、Facebook、Twitterで日々の献立やイベント情報も発信しています。それらについて、洗足カフェプロジェクト代表の和田夏子氏にお話しいただきます。



和田夏子氏



1975年生まれ。東京大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。2001～2008年、株式会社都市デザインシステムでコーポラティブハウス、複合施設、賃貸住宅などの設計、企画・プロデュース、プロジェクト推進などに携わる。2008年から東京大学新領域創成科学研究科特任研究員。持続可能な社会の実現をテーマに、都市のCO₂排出量評価、コンパクト化の手法、まちづくり等の研究を行っている。一級建築士、博士(環境学)。2008年に長女が生まれてからは、安全な食材への関心と自然に触れさせる子育てへの共感からNPO法人南房総リパブリックの活動に参画(理事)。

日時	2012年 11月7日(水)	
	19:00～21:00(18:30開場)	
会場	中野区役所9階会議室 JR中野駅前 ※サンブラザ側入口からお入りください。	
参加費	500円 ※資料代含む	定員 75人 ※中野区外の方も参加できます。



主催 協議体チーム中野

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① 中野区
地域支えあい推進室 | ② 公益社団法人
長寿社会文化協会(WAC) |
| ③ 社会福祉法人
中野区社会福祉協議会 | ④ NPO法人
中野の和 |
| ⑤ NPO法人
カサ デ オリーバ | ⑥ NPO法人
障害者の就労を進める会 そら |
| ⑦ 任意団体
ドロップインほっとほっと | |

事務局(WAC内) ☎03-5405-1501
Facebookページ team.nakano1

参加申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記 Facebook ページに設けた参加申し込みフォームを入力し、送信してください。

この方法がとれない方のみ、下記項目を FAX: 03-5405-1502 または電話: 03-5405-1501 までお知らせください。

(空席がある場合、当日の飛び入り参加も可能)

第28回コミュニティカフェ研究会【11月7日(水)】に参加します。

(ふりがな)

お名前	所属・職業	年齢	歳	E-mail
TEL	ご住所			
一時保育(1日まで申し込み、定員10名)・子ども氏名		男・女	歳	力月 備考
チラシを入手した場所・人				

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

コミュニティカフェ開設講座

第2期

主任講師
コーディネーター **山根真知子氏**



東京都出身。バルシステム東京などの生協で、市民活動の立ち上げおよび支援に携わる。2002年からNPO法人NPO事業サポートセンターの理事として、NPOの設立支援、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスに関する相談や研修などを行う。2005年からバルシステム生活協同組合連合会の専門委員として、女性の起業支援講座「実践起業塾」などを担当。2007年2月から3年間、NPO事業サポートセンターが運営受託した中野区公益活動情報コーナー（区役所1階）の責任者も務めた。書籍「コミュニティ・カフェをつくらう！」（学陽書房、2007年刊）の執筆者の一人。

講師（第5回担当） **金 順玉氏**



東京都出身。中小企業診断士、消費生活アドバイザー。家業である飲食店、ホテル等の経営を経て、1998年に独立。個店、商店街、中心市街地活性化のコンサルティングや専門学校、社員研修、起業塾等の講師歴多数。

受講料 **{ 3,000円 }** { 全6回、資料代含む。事例見学の交通費、飲食費は別途自己負担 }

定員 **{ 20人 }** { ※応募者多数の場合は選考したり、第3期（1月中旬開講）に回ったりしていただくことがあります。中野区外の方も受講できますが、都外の方はお問い合わせください。 }

主催 { 協議体 事務局 (WAC内) ☎03-5405-1501 チーム中野 Facebook ページ team.nakano1 }



ワークショップ

事例見学

中野区では区、社会福祉協議会、長寿社会文化協会(WAC)、区内NPO等と「協議体チーム中野」を構成し、コミュニティカフェを開きたい団体、個人等向けに開設講座を行っています。第2期は、事例見学からコミュニティカフェのノウハウを学び、ワークショップで学びを個別の事業計画にまとめていきます。毎回のまとめが事業計画になっていく、「おもいを形」にしていく全6回の実践的な講座です。

カリキュラム(予定)

回	日程	場所
1	11月23日(金祝)	なかのZERO 西館学習室B
内容	事業コンセプトの設定 ●講義:①事例に学ぶ。②起業のきっかけや資金の作りかた、現在までの事業の歩みを学ぶ。 ●ワークショップ:①事業コンセプトを考える。②ビジネスプランを考える。	
2	12月8日(土)	現場見学①
3	1月12日(土)	現場見学②
内容	現場見学から学ぶ①「事業・サービスを考える」 現場見学から学ぶ②「事業計画書を作成する①」 ●講義:団体の現場を見学し実感を持つ。代表者などの講演を聞き、設立の経過、経営状況などを学ぶ。 ●ワークショップ:午前中の現場見学や講演を参考に、事業やサービスの具体的内容を考える。②地域資源について考える。③マーケティングについて学ぶ。	
4	1月26日(土)	なかのZERO 西館学習室2
内容	さまざまな事例から学ぶ「事業計画書を作成する②」 ●講義:さまざまなコミュニティカフェの事例を学ぶ。 ●ワークショップ:午前中の講義を参考にマーケティングを学ぶ。②第2・3回で考えた事業・サービス内容等を基に、事業計画書を作成する。	
5	2月2日(土)	中野区役所9階第11会議室
内容	資金計画、損益計画を学ぶ「事業計画書を作成する」 ●講義:創業資金の集め方や助成金の獲得方法などを学ぶ。 ●ワークショップ:①資金計画、損益計画を作成する。②事業計画書を作成する。	
6	2月16日(土)	中野区役所9階第11会議室
内容	「事業計画・資金計画のブラッシュアップ」 ●発表とコメントーターの講評:①事業計画書の発表。②事業計画書に補足することを見つける。③事業計画書の課題を見つけ、解決策を知る。	
※時間は10:00~16:00(予定)		

受講申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記 Facebook ページに設けた受講申し込みフォームを入力し、送信してください。

この方法がとれない方のみ、下記項目および「受講の動機や開きたいコミュニティカフェ」についての作文(400字以上)を FAX: 03-5405-1502 までお送りください。
コミュニティカフェ開設講座(第2期)の受講を希望します。

※申し込み期限:11月15日(休)

(ふりがな)
お名前 _____ 所属・職業(具体的に) _____ 年齢 歳 E-mail _____
TEL _____ ご自宅住所 〒 _____

受講の可否(都合がわかったら○×を付ける) 11月23日 12月8日 1月12日 1月26日 2月2日 2月16日

チラシを入手した場所・人 _____

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第30回 コミュニティカフェ研究会

テーマ 事業ミックスにより、持続できる居場所づくり

「歳をとっても自分の家で暮らすには、健康を支える食事と生きがいと“ご近所さん”は欠かせない。それらが全部手に入る居場所があったらいいね」。近所の女友達3人の茶飲み話から始まった「レストランサラ」。開業前に半年間開いた食事会で、高齢者の好みや地域についてリサーチし、経営の方針を探りました。現在では配食サービスも実施しています。その後、空き店舗活用推進事業の助成金を得て多店舗化し、講座やイベントを行う「ひろばサラ」を開き、新たな収益事業として始めた「デイサービスサラ」も、個別対応のケアが好評を得ています。事業ミックスにより、持続できる居場所づくりを進めている紀平容子さんにお話しいただきます。

日時	2013年 1月28日(月)	
	19:00~21:00 (18:30開場)	
会場	中野区役所7階会議室 JR中野駅前 ※サンプラザ側入口からお入りください。	
参加費	500円 ※資料代含む	定員 60人 ※中野区外の方も参加できます。



講師 きひら ようこ
紀平容子氏

神戸市出身。地方公務員を経て、フリーライター。1995年の阪神・淡路大震災がコミュニティを考えるきっかけになり、98年に地域の居場所づくりをめざす「高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会」を立ち上げる。99年、地域の女性たちと、商店街の空き店舗で「レストランサラ」を開店。現在、「デイサービスサラ」「ひろばサラ」を含め3店舗を運営。2000年にNPO法人格取得後、代表理事。



主催 協議体チーム中野

① 中野区 地域支えあい推進室	② 公益社団法人 長寿社会文化協会(WAC)
③ 社会福祉法人 中野区社会福祉協議会	④ NPO法人 中野の和
⑤ NPO法人 カサ デ オリーバ	⑥ NPO法人 障害者の就労を進める会 そら
⑦ 任意団体 ドロップインほっとほっと	

事務局(WAC内) ☎03-5405-1501
Facebookページ **team.nakano1**

参加申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記 Facebook ページに設けた参加申し込みフォームに入力し、送信してください。

※ホームページからの申し込みができない方は、下記項目を FAX : 03-5405-1502 または電話 : 03-5405-1501 までお知らせください(空席がある場合、当日の飛び入り参加も可能)。

第30回コミュニティカフェ研究会【1月28日(月)】に参加します。

(ふりがな)

お名前	所属・職業	年齢	歳	E-mail
TEL	ご住所 〒			
一時保育(23日まで申し込み、定員10人)・子ども氏名	男・女	歳	力月	備考
チラシを入手した場所・人				

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

第3期 コミュニティカフェ開設講座

対話を通して学ぶ〈場づくり〉の技法

【主任講師
コーディネーター】



坂倉杏介氏
慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師、三田の家LLP代表、NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事。地域コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを、個人とコミュニティの成長における「場」の働きに注目して研究。キャンパス外の新たな学び場「三田の家」、地域コミュニティの拠点「芝の家」の運営を軸に、「横浜トリエンナーレ2005」、「Ars Electronica 2011」など美術展への参加、大学内外での教育活動を通じて、自己や他者への感受性・関係性をひろく場づくりを実践中。

【講師(第2回担当)】



広石拓司氏
大阪市生まれ。2001年からNPO法人ETICにて社会起業家の育成・支援に取り組む。主宰する「社会起業プランニング講座」には全国から3,000人以上が参加。2008年5月に株式会社エンパブリックを設立し、代表取締役。知恵と力を持ち寄る場づくり、事業が生まれるコミュニティづくりのためのプログラム開発、担い手育成に取り組む。慶應義塾大学SFCなどの非常勤講師も務める。エンパブリック <http://empublic.jp/> エンパブリック根津スタジオ <http://nez-studio.jp/>

【講師(第3回担当)】



ひと☆いき カフェ エカイエ オーナー
ギャラリー、まちづくり拠点の機能を併せ持つ、中野区上高田にある日替わりカフェ。毎週水曜夜の「まちづくりカフェ」では、多様な人々が交流することでアイデアや企画が生まれ具現化されている。2012年は、ワークショップ系イベントを中心に12回開催。以下は、2011年9月からの4人の共同オーナー
●丸山伊太郎氏：中野駅北口で32年続く元祖無国籍カフェ「カルマ」を経営。他にカフェ3店の共同オーナー ●中村信子氏：人形劇俳優、美術家。中野区内のNPOで子どもの居場所事業を実施 ●鈴木純子氏：オンリーワンビジネスをプロデュースする株式会社アプロディー社長、一般社団法人日本リ・ファッション協会代表理事 ●前田量子氏：管理栄養士。月～水曜のカフェ担当

受講料 { 3,000円 } { 全5日分、資料代含む。交通費、飲食費は別途自己負担 }

定員 { 20人 } { ※応募者多数の場合は、作文等で選考。中野区外の方も受講できますが、都外の方はお問い合わせください。 }

主催 { 協議体 チーム中野 } 事務局 (WAC内) ☎03-5405-1501 Facebook ページ team.nakano1



受講生同士の対話

芝の家の中

コミュニティカフェは、多様な人々が出会い、関わりあう場です。こうした場を、どのようにしたらつくることができるでしょうか。本講座では、参加者同士の対話や「芝の家」での体験を通じて「人と人との関わり」を深く考え、〈場づくり〉の技法をともに学んでいきます。

※本講座は、中野区、中野区社会福祉協議会、長寿社会文化協会(WAC)、中野区内NPO等で構成する「協議体チーム中野」が、東京都新しい公共支援事業の助成を受けて実施する、コミュニティカフェを開きたい団体、個人に向けた開設講座です。

カリキュラム(予定)

回	日程	場所
1	2月9日(土)	中野区勤労福祉会館研修室
内容	対話の場(コミュニティカフェ)って何だろう? ●対話の時間1:対話の導入 ●講義:コミュニティカフェとは? ●対話の時間2:ワールドカフェ「私の実現したい対話の場とは?」	
2	2月24日(日)	スマイルなかの会議室AB
内容	想いをカタチにしていく方法 ●講義:想いをカタチにしていく方法 ●講義:芝の家のつくり方 ●対話の時間3:何のためのコミュニティカフェ? 大切にすることは何?	
3	3月2日(土)	中野区役所9階第11会議室
内容	他人のなかの(私)に出会う ●事例紹介:エカイエの人々とその活動 ●対話の時間4:芝の家を振り返って ●対話の時間5:持ち寄ることの豊かさを感じる	
4	3月23日(土)	中野区勤労福祉会館研修室
内容	明日からの未来をつくる ●対話の時間6:グループフィードバック ●講義:アイデアの技法「創造的矛盾とアウトカム構想力」 ●対話の時間7:ストーリーづくり「人が集まることで生まれる価値とは?」	
現場体験	コミュニティカフェ体験 2月11日(月)～3月1日(金)までの期間中に1日 ●芝の家の1日体験 ●地域コミュニティの拠点「芝の家」(港区)で、コミュニティカフェの現場を1日体験します。	
	※時間は10～16時(現場体験は別途)。 ※原則として、全5日を通して受講していただきます。	

受講申し込み

WACのホームページ(www.wac.or.jp)や上記Facebookページに設けた受講申し込みフォームに入力し、送信してください。

※ホームページからの申し込みができない方は、「コミュニティカフェ開設講座(第3期)受講希望」と明記の上、下記の項目および作文「受講動機とコミュニティカフェに対する想い」(400字程度)を、FAX: 03-5405-1502 までお送りください。

※申し込み期限:1月31日(休)

(ふりがな)
お名前 _____ 所属・職業(具体的に) _____ 年齢 歳 E-mail _____

TEL _____ ご自宅住所 〒 _____

受講の可否(やむを得ず欠席する日があったら、×を付ける) 2月9日 2月24日 3月2日 3月23日

チラシを入手した場所・人 _____

※お預かりした個人情報は、講座や研究会等の案内、コミュニティカフェ情報の送付にのみ使用します。

受講生9人が結集、 早くも川島商店街で開設へ

「協議体チーム中野」が主宰する 新しい公共支援事業

開設支援の連続講座、3期とも盛況

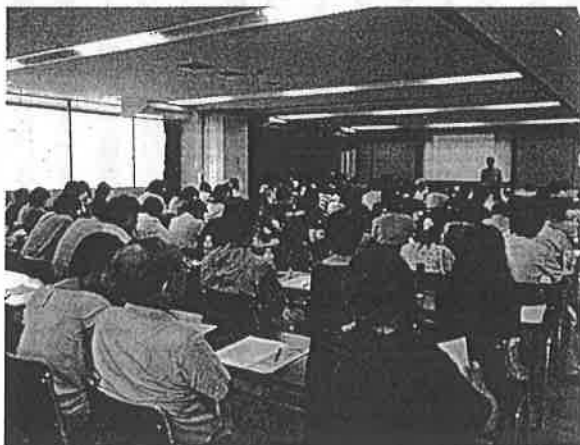
本冊子は「協議体チーム中野」のコミュニティカフェ開設支援事業の活動をまとめたものです。「チーム中野」は、中野区（担当は地域支えあい推進室）、中野区社会福祉協議会、同区内の3つのNPO法人、公益社団法人・長寿社会文化協会（WAC）など7団体で構成しています。「チーム中野」の詳細は8ページを参照していただきたいと思います。

コミュニティ カフェ を開こう!!

コミュニティカフェ開設支援事業は、政府が掲げる「新しい公共」のひとつである。新しい公共とは、地域の諸問題を解決するために、自治体などの行政だけでなく、地域住民やNPO法人などの地域事業者の参画を仰ごうというものだ。

具体的には、それぞれの地域の団体や自治体が地域問題の解決策とその運営組織を作って名乗りを上げる。都道府県の審査を経て国からの事業資金が運営組織に渡る。この運営組織が「チーム中野」というわけだ。

「チーム中野」が、東京都の「2012年度・東京都新しい公共支援事業」の助成金546万円でコミュニティカフェ開設支援事業の活動を始めたのは2012年5月だった。



コミュニティカフェ開設講座説明会

開設講座を設けてスタートするためには、幅広く告知し受講生を集めなければならぬ。そこで、コミュニティカフェ開設講座説明会を開いた。7月28日、中野区役所7階の会議室には、予想を上回る約140人が参加した。コミュニティカフェへの関心の高さがうかがえた。

コミュニティカフェに詳しい神奈川大学講師の久田邦明さんの「コミュニティカフェを始めませんか」と題した基調講演でスタート。久田さんは全国各地でのコミュニティカフェの事例を挙げながら「コミュニティカフェは地域社会の再生につながる。小さい形から始めて、喜ぶを楽しく豊かなものに変えていきましょう」と呼び掛けた。

続いて、コミュニティカフェを既に運営している3人が次々登壇し、開設の動機や経緯、苦労話などを披露した。

まず、JR中野駅近くで2011年6月、精神障害者が働くレストランを開設した中川弥生子さん。中川さんは、NPO法人「障害者の就労を進める会そら」の代表で、店名は「キッチンそら」。

そもその動機は「普通の主婦でしたが、乙武洋匡さんの『五体不満足』を読んで、家族以外の他人のために出来ること何かあるのでは、と思いました」と話し出すと、会場のあちらこちらで頷く表情が見られた。

すぐに行動に移ったそうだ。「最初は社会福祉協議会が紹介するボランティア

活動から始め、次いで、ホームヘルパーの資格を取りました。そんな活動の中で、長時間続けて働くことが出来ないのが就業場所がない精神障害者のために役立てば、と考えるようになりました」と思いを語ってくれた。

次に、吉祥寺や中野区内で「堂楽カフェ」を開いてきた山本祐也さん。

「コミュニティカフェは地縁や人とのつながりをつくり、楽しく協力し合いながら運営できるカフェです」と話す。

最後に、豊島区池袋から来た柳田好史さんが、豊富な実践例からコミュニティカフェの意義を説いた。NPO法人「としまNPO推進協議会」の代表理事で地域サロン「みんなのえんがわ池袋」を運営している。

「コミュニティカフェは地域の課題を解決する場です。ですから課題をきちんととらえなければ長続きしません。賛同し、共感し、参画してもらうことで、地域の宝、人が集まる場になります。昼間は子供向け英会話教室を開き、夜間は学習塾にスペースを貸して、採算をとるように工夫しています」と、体験を踏まえた説得力のある話に出席者は聞き入った。

こうして幕を閉じたが、参加者のアンケート結果を集計すると、開設講座を「ぜひ」「時間が合えば」受講したい人が半数近くに達し、コミュニティカフェに強い興味があることがよく分かった。

第1期コミュニティカフェ開設講座

(平日は19時～21時30分まで中野区役所会議室、スマイルなかの、なかのZEROで。土曜は午後事例見学)

回	日程	内容
1	10月 2日(火)	自己紹介、参加動機の集約
2	10月 9日(火)	各地の事例紹介
3	10月20日(土)	先進事例を視察①
4	10月23日(火)	事業計画の作成法
5	10月30日(火)	地域課題の洗い出しと地域ニーズの把握法
6	11月 6日(火)	アンケート調査の整理と反映法
7	11月10日(土)	先進事例を視察②
8	11月17日(土)	先進事例を視察③
9	11月19日(月)	事業計画と運営プログラム作り
10	11月27日(火)	開催曜日、日時などの運営法の検討
11	12月 4日(火)	運営プログラム作り
12	12月11日(火)	参加者の意見発表

コミュニティカフェ開設の連続講座

1～3期で60人が参加

講師に工藤秀美さん、山根真知子さん、坂倉杏介さん

第2期コミュニティカフェ開設講座

(10時～16時まで中野区役所会議室、なかのZERO、見学先で)

回	日程	内容
1	11月23日(金)◎	事業コンセプトの設定
2	12月 8日(土)	現場見学から学ぶ① 「事業・サービスを考える」
3	1月12日(土)	現場見学から学ぶ② 「事業計画書を作成する①」
4	1月26日(土)	さまざまな事例から学ぶ 「事業計画書を作成する②」
5	2月 2日(土)	資金計画、損益計画を学ぶ 「事業計画書を作成する」
6	2月16日(土)	事業計画・資金計画のブラッシュアップ

第3期コミュニティカフェ開設講座

(10時～16時まで中野区勤労福祉会館、中野区役所会議室、スマイルなかの。現場体験は港区・芝の家で希望する日)

回	日程	内容
1	2月 9日(土)	対話の場(コミュニティカフェ)って何だろう? ●対話の導入、コミュニティカフェとは?、ワールドカフェ「私の実現したい対話の場とは?」
2	2月24日(日)	想いをカタチにしていく方法 ●想いをカタチにしていく方法、芝の家のつくり方、何のためのコミュニティカフェ? 大切にすることは何?
3	3月 2日(土)	他人のなかの「私」に出会う ●エカイエの人々とその活動、芝の家を振り返って、持ち寄ることの豊かさを感じる
4	3月23日(土)	明日からの未来をつくる ●グループフィードバック、アイデアの技法「創造的矛盾とアウトカム構想力」、ストーリーづくり「人が集まることで生まれる価値とは?」
現場体験	2月12日(火)～3月1日(金)の希望する日	●地域コミュニティ拠点「芝の家」(港区)で、コミュニティカフェの現場を1日体験

協議体チーム中野は、2012年10月2日からコミュニティカフェ開設支援の連続講座を開いた。3人の主任講師が第1期から第3期までをそれぞれ担当した。第1期担当の工藤秀美さんは市民シンクタンク株式会社ひとアンドまち研究所代表。住民参加型のまちづくりの重要性を提唱し新宿区、日野市などで調査から計画づくりまで携わってきた。中野区まちづくり専門調査員を務めたこともある。第2期担当の山根真知子さんは「コミュニティ・カフェをつくらう!」の著者の一人。NPO法人「NPO事業サポートセンター」理事。パルシステム東京などの生協で、市民活動や起業の支援で豊富な経験を持つ。2007年から3年間、中野区公益活動情報コーナー(区役所1階)の責任者も務めた。

第3期担当の坂倉杏介さんは、慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師。港区でコミュニティ拠点「芝の家」を慶應義塾大学の学生や地域住民らと運営している。大学内外の教育活動を通じて、自己や他者への感受性、関係性をひらく場づくりを実践中だ。

第1期に応募してきた人は48人にも達し、コミュニティカフェが共感を呼び、関心の高いことを示した。事務局が講師と相談しながら、受講動機やカフェ開設プランなどから書類選考し、20人を選んだ。

中野区民が13人、その他の都民が7人となった。女性が13人、男性は7人。最も若い25歳の男性から最年長の67歳の女性まで

☆☆☆

年齢には幅があったが、男女とも60歳前後が多い。職業は、一級建築士、社会保険労務士、保育士、学童指導員、介護施設職員、生命保険会社営業、NPO理事、地方公務員など多様だった。

既にコミュニティカフェを運営している人や店舗を借りて準備に入っている人もいた。

平日の夜、2時間半の座学、ワークショップと土曜日にはコミュニティカフェの先進事例を視察するというのが第1期

かえカサムシカで工藤さんの話を聞く(第1期)



福祉亭を見学(第1期)



受講生同士の対話 (第2期)

受講生同士の対話 (第3期)



模造紙に「実現したいコミュニティカフェ」をまとめる (第3期)

の日程だ。

10月2日に始まった最初の日に講師の工藤さんは「受講動機や実現させたいことがしっかりしていないと、失敗に終わる可能性が高い。カフェの運営だけでなく、社会を変えていこうという大きな志が、カフェの開設には欠かせないと思う」と、受講生に熱いメッセージを送り、講義に入った。

受講生は4つのグループに分かれて、事業計画と運営プログラムづくりに励んだ。「まちの中にどんな課題があるかを考え、その課題解決の場としてコミュニティカフェが有効。共通の目的を持つ仲間のために、商店街、町会、社協などを巻き込んで、プランを具体化させよう」と工藤さん。

1期生は中野区内居住者が多く、また、

時間は短くても回数が多かったため、互いに親しくなる受講生が多かった。
10月9日の第2回の講座には、地元のカバーテレビ「シティテレビ中野」の取材が入り、ニュース番組で放映された。

★ ★ ★

第2期は11月23日から始まった。講師の山根さんが注力したのは、各人による事業計画書づくり。見学先のコミュニティカフェ主宰者や中小企業診断士による講義も交えて、事業コンセプトの設定から提供するサービス、販促・仕入れ計画、資金計画、損益計画までを徹底的に考えさせた。

「思いがあっても、自分達目線ではダメです」と説いた。自宅で「ガーデンカフェ」を計画中の桑田厚子さんは「頭で考えてきたことが、客観視できてよかった。先生方のアドバイスのおかげで、アンテナが広がリアイデアが広がった」と言う。

第3期の講師、坂倉さんは、毎回の受講生同士の対話などを通じて、「人と人との関わり」を考えさせ、「場づくり」の技法を教えた。

「その場にいる人を大切にすること」「人間中心の場」を日常生活の中

に開きたい。他者との出会いがうつわとネットワークをつくり、両者の相乗効果が豊かな「場」をつくる」と坂倉さん。
受講生は、希望する日に2、3人ずつ「芝の家」を訪ね、講師が唱える「居たいように居る」体験を試みた。始めと終わりの振り返りミーティングにも参加し、訪問者たちの体調と気分、プロセスを確認、共有した。
芝の家への訪問は好評で、ある受講生は「芝の家での素晴らしい出会いが忘れられません。最大の学びは『居たいように居る』ことがこんなにも快感だということでした」と講座終了後の感想文に記していた。

コミュニティカフェ開設講座の見学先一覧

期	回	日程	コミュニティカフェ	場所	備考
第1期	3	10月20日(土)	かふえかサムシカ	東京都国立市中	全員
			Cafeここのたの	東京都国立市富士見台	
	7	11月10日(土)	福祉亭	東京都多摩市永山	福祉チーム
			込煮亭	東京都多摩市愛宕	
			芝の家	東京都港区芝	時間割、文化チーム
	8	11月17日(土)	洗足カフェ	東京都目黒区洗足	福祉チーム
ケアラーズカフェ&ダイニングアラジン			東京都杉並区阿佐谷北		
みたか・みんなの広場			東京都三鷹市下連雀		
街カフェ大倉山ミエル			横浜市港北区大倉山	時間割、文化チーム	
第2期	2	12月 8日(土)	スペースナナ	横浜市青葉区あざみ野	全員
	3	1月12日(土)	レストランサラ	東京都立川市若葉町	全員
第3期		2月13日(木)~3月1日(金)の希望した日	押上☆一軒家カフェ ikkA	東京都墨田区向島	希望した日に個別に7時間半見学・体験
			芝の家	東京都港区芝	

コミュニティカフェ研究会を6回開催

先行者と活発な質疑応答も
「みんなのえんがわ池袋」「洗足カフェ」
「風まちサロン」「レストランサラ」
「ケアラースカフェ・アラジン」の話を聞く

名和田・法政大教授の講演も



第3回研究会「洗足カフェ」の2階



第4回研究会「風まちサロン」

コミュニティカフェ開設のための連続講座とは別に、単発の「コミュニティカフェ研究会」を6回開いた

カフェ運営者を中心に、斬新な発想や豊富な現場体験を持つ講師陣が登場。来場者との質疑応答の時間をたっぷり設け、内容の濃い研究会となった。講演要旨は次の通り。

第1回 2012年9月

法政大学法学部教授・名和田晃彦さん

仲間うちだけでない、不特定多数に開かれた公共空間をつくる試みが各地で始まった。弱体化した自治会や町内会に代わって、担い手を発掘する最前線にあるのがコミュニティカフェである。

私が関わっているのは横浜市の港南台タウンカフェ。地域の行事の準備に大学生から高校生、時には中学生も集まる。郷土史の会など仲間の集まりの隣に、公共世界が広がっている。

第2回 2012年10月

NPO法人「としまNPO推進協議会」

代表理事・柳田好史さん

コミュニティカフェは地域の課題を解決する場で、課題をとらえなければ長続きしない。賛同し、共感し、参画してもらうことで、地域の宝、人が集まる場になる。「みんなのえんがわ池袋」は、我々コーディネーターやス

タッフ、町会、商店会、大学、行政などのサポーターが協調し成り立たせている。

第3回 2012年11月

「洗足カフェプロジェクト」

代表・和田夏子さん

日替わりオーナー制のコミュニティカフェを運営している。このカフェの長所は、毎日違うランチが提供できること。運営者も、初期コストがかからず、仕事を辞めずにチャレンジでき、少ないリスクで始められる。利益だけを目標にしているわけではないので、1日当たりの利益は少なくても頑張れる。地域貢献したいと思っているオーナーが多い。

第4回 2012年12月

「スープの会」

スタッフ・新部聖子さん

路上生活を脱出した人が地域とつながる場所が必要と考えて「風まちサロン」を設けた。だが、今の利用者のほとんどは地域の人だ。特定のプログラムはない。来たくなったら来て、帰りたくなったら帰る。日・

水曜以外の午後2〜5時と金曜夜間に開いている。

第5回 2013年1月

NPO法人「高齢社会の食と職を考えるチャンネルの会」

代表理事・紀平容子さん

阪神大震災で祖母が生き埋めになったのを近所の人たちが掘り起こして助け出してくれた。人のつながりのない地域では生きていけないと思い、つながりをつくる活動を始めた。毎日5〜70食の宅配弁当を作る「レストランサラ」と、家庭的な雰囲気「デイサービスサラ」が、「ひろばサラ」の赤字を埋めている。いずれもマーケティングや準備などに1年近くかけた。

第6回 2013年3月

「ケアラースカフェ&ダイニング・アラジン」
専任スタッフ・森川恵子さん

ケアラー（介護者）がいつでも気軽に立ち寄れる居場所として1年前に開設した。地元の病院や企業の協力を得て、ケアや生活、健康をテーマに講座



第5回研究会「レストランサラ」店内



第6回研究会「ケアラースカフェ&ダイニング・アラジン」店内

を開催。親を介護する娘（息子）だけの「娘（息子）サロン」も開く。60代女性の利用が多い。朝食からランチまではシェフ、午後はアラジン、夜はバーマスタをそれぞれ事業主にして、各々が創意工夫することで黒字化を目指していく。

講座発表会

アートカフェ、出張カフェ、 下町カフェ、自宅でガーデンカフェ… 受講生が開設プランを発表 講座の成果を披露

5人と1グループが登壇、3月10日に開催



桑田厚子さん



石川寛子さん

開設講座の受講生たちが、研修成果を踏まえてコミュニティカフェ作りを始めようとしている。そのプラン発表会が3月10日に中野区役所内の会議室で行われた。

「コミュニティカフェ開設講座——合同発表

と交流の会」である。受講生を中心に一般参加者など約70人が集まった。

発表者は5人と1グループ。開設講座の講師となった工藤秀美さんと山根真知子さんが、それぞれのプランを講評する形式で進んだ。

太田代輔さん（市川市在住）、森田壮さん（中野区弥生町）、桑田厚子さん（府中市）といずれも2期生の3人が順番に登壇。パワーポイントを駆使して熱弁を奮った。

太田さんは文芸や絵画、手芸、服飾などのアート作品をテーマにした「アート・コミュニティカフェ」を提案した。アート作品を、素人が作業スペースで作ったり、ギャラリーで見たり、ボックスショップで販売しようというものだ。

「街の芸術家を応援する、ものづくりカフェ。つくる、みる、しゃべる、たべる、かせぐ、つながることが出来る場所」とも説明する。「表現したい人たちが応援したい」と太田さん。

モノ作りの場を提供しようというのは森田さん。その名も「趣味D.O.場（ドウバ）。ユニークなネーミングだが、明るく軽い音楽のノリから命名したという。必要な道具一式とテーブル、椅子を用意し、来訪者に提供する。

発表会後の分科会



講師から講評を受ける合同発表会



「机ひとつ分のスペースでできる、ものづくりをして楽しむワークショップです」と森田さん。

デコ（クリスタルガラスによる装飾）やソーブカービング（せっけん彫刻）などを想定しているという。開業当初の売上高は月33万円だが、軌道に乗れば60万円。利益が1万6千円になる損益計画も示した。

初心者が手ぶらで気軽に楽しめそうだ。当面は店舗を持たないで、出張ワークショップ方式を採る。このアイデアには講評者の山根さんから「家賃など固定費が掛からないのいい」と評価された。

子連れママや退職団塊世代向けに、自宅を開放しようと意気込むのは桑田さん。「コミュニティ・ガーデンカフェ きゅ庵」を発表した。子連れで来て、子供が昼寝中にランチやお茶を楽しめる場所にしようという。「核家族化で孤立しているママたちの不安を解消したい」と思いました。

それに加えて、「リタイア後の高齢者がゆつたりした生活を実感できる場所にもしたい。居場所のない夫を含めた団塊男性のために」と対象者が明確だ。

木々が生い茂る広々とした自宅の庭の写真を示しながら「果樹の実を採ったりして、他ではできない自然との関わりを」と訴える。収集した上質の陶器で飲食を提供し「非日常的空間で楽しんでもらえるはず」。

来春に定年になる夫と一緒に、週2日の開業予定で、今秋から春には始めたいと言っている。2期と3期の受講生、石川寛子さん（葛飾区）が「下町カフェ支援」を提案した。石川さんは葛飾区市民活動センターの職員。同センター近くの開店休業中の居酒屋を改装して開く計画だ。

2011年1月から、個人の家を借りてコ

ミュニティカフェ「四つ木茶屋」の運営に携わった。「仲間のエチオピア人のカレーが人気で、日に70人の来店客があった。でも、長期に借りることが出来なかった」と話す。

その後、同センターで月1回、地域の人の胡弓演奏会を開いたり、被災地から子供を受け入れ水元公園でオタマジャクシ取りなどの活動をしてきた。

そして、今、居酒屋「まこと」を4万円の格安家賃で借りてコミュニティカフェ開設を目論んでいる。「葛飾の小松菜を使ったコロッケをスター商品にしたい」と計画案を披露。

改装費の383万円に対し、会場から「高いのでは」と声があり、講師の工藤さんから「手元資金だけで考えては」と指摘を受ける。日野市で7月の開設予定で取り組んでいるのは山崎恵子さん。

日野市平山5丁目の京王モール街、その空き店舗を使った「ふれあいサロン」である。市内で最も高齢化が進んでいる地域で「ちょっとお茶を飲んでいける場所をつくり、住民が孤立しないで交流できるようにしたい」と話す。

同モール街は16軒あったが「今は魚屋と歯科医院しか開いていない」。厳しい環境だが「敢えて選びました。シャッターが次々開けばいいと思って」と相当の決意が感じられた。日野市では、「ふれあい交流拠点」として4カ所のサロンに助成しており、山崎さんはその5番目を目指す。家主や市役所と協議を進めており、民生委員や地域包括支援センター職員などの仲間もそろい、実現まで間近のようだ。

最後に登場したのは、9人グループの「てたて」。その歩みは次ページで。

こうした発表の後、参加者はテーマごとに分かれ、分科会を開いた。

受講生9人が グループ「てたて」を結成

4月にコミュニティカフェを開設 川島商店街(中野区弥生町)で 旗揚げ

tête-à-tête



大村 敏さん

1、2期生、街づくりコンサルタント。昨年6月にコンサル会社を退職。木造家屋が密集する中野区野方で再開発に関わる。退職後に「おにぎり屋を手掛けようか」という気もあって受講。60歳代の最年長。「当初は違和感もあったが、みんなの情熱と積極性に感銘」し溶け込んで、「お父さん」として代表に就任。



齊藤裕子さん

1、2期生。親しくなった1期生とともに2期講座も受ける。編集者を退職しコミュニティカフェには飲食が欠かせないはず」と、その準備を兼ね、3月から中野駅近くのカフェで調理の現場に。製菓衛生師。「てたて」の名称を提案するなどリーダー格で副代表。「ピンとくるとすぐ行動するタイプ」とは夫の評。



松井美由紀さん

1、2期生、保育士、スキーマのインストラクター。保育園や児童館で勤務。そこで乳幼児と母親の広場作りを手掛け、居場所の重要性を知った。「コミュニティカフェでよく知らなかった」が、3月10日の合同発表会では、自作のパワーポイントを駆使して「時間割カフェ」を分かりやすく説明した。副代表。



對馬有佳子さん

1、2期生。グループの経理を担当。「喫茶店と本屋さんが好きなので、カフェを作りたいかった」。税理士事務所働いており、その仕事上、多くの市民事業者と接してきたが「社会的でない活動なのに、頑張るほど収支が取れなくなるのが実態。なんとか採算が取れるような仕組みを知りたい」と講座に参加した。

「てたて」は川島商店街の朝市に参加し始めた。3月31日にはコスモ会館で「てたて焼き」を作り、販売。

3月10日の合同発表会で最後の登壇者は3人組だった。このほかに6人が同じ「なかのコミュニティ研究会 てたて」のメンバー。9人もの受講生が集まって、ひとつのグループを作り、コミュニティカフェの開設に走り出した。9人は、今回の開設講座で初めて顔を合わせた。それが、2期講座が始まった昨年11月には話し合いを始め、1月に会則を作成して「てたて」として名乗りを上げた。

早くも4月には中野区内の商店街で旗揚げすることになった。「講座があったからこそ、みんなが会えた。9人が力を合わせてきたので、とんとん拍子で話が進んで、夢がかないそう」と、異口同音に笑顔で頷きあう。

第1期の講座の終わりころに「もつと続けよう」と声を掛けたのが齊藤裕子さん。

「てたて」とは、「tête-à-tête」のこと。フランス語で「向き合って」の意。命名した齊藤さんは「人と人が出会える場所を作ろう、という気持ちを含めた」と思いを説く。

同じ班の下田恭子さんと中野薫さん、安田美智子さんも仲間に加わり、他の班から坂本達雄さんが、そして2期受講生からも森田壮さんが賛同してやって来た。仲間の輪が大きく広がる。

受講中に検討してきたのが「時間割カフェ」。学校の時間割のように、午前、午後、夕方と一日をコマ割りにして活動内容を盛り込む。

中野区野方で地域再開発に関わっていた大村敏さんが「空き店舗もあるからみんなで見に行こうよ」と呼び掛ける。11月下旬に全員が野方の商店街を歩き回った。「街歩きを重ねて、防災マップ作りができれば、それにプラスしてカフェで賑わいを取り戻したい」と熱く語る大村さん。

そこへ、2期の受講生、小宮山たかしさんから声がかかった。「うちの商店街で使える場所がある。無料で貸してもいいよ」。12月のことだ。



坂本達雄さん
1期生。9年前に勤務先企業から「不当解雇」され、5年前から親の介護に追われ出す。「コミュニティカフェ」を目指していた自営業の入口だと思い、講座に通った。その結果「企業では成立しないような仲間の輪ができた。大きな収穫です。体験を踏まえて川島商店街では法律相談の場を設けたい」と言う。



中野薫さん
1期生、銀粘土技能認定者。中野区内の区民活動センターで、月2回の銀のアクセサリー作り教室「アートクレイシルバパピヨン」を行う。川島商店街でも同様の教室を開く。広島県出身で結婚を機に上京し、マンション暮らし。「地域ともっと関わりたい」と講座に応募。左の写真のフレズレットとペンダントも作品だ。



安田美智子さん
1期生。昨年5月に中野区南台の店舗付きの2階家に引っ越した。「1階を演奏会場など大好きな音楽関連の店にした。その参考に」と受講。講師から「趣味の延長だけではうまくいかない」と指摘され、「いい勉強になった」。川島商店街ではコースを指導。フルタイムの勤務の後、皆の会合に駆けつける。



下田恭子さん
1期生、一級建築士。安藤忠雄に触発されて建築の道に。夫も一級建築士で夫妻で建築事務所を営む。個人住宅のほか飲食店やサロンなどの店舗も手掛けてきた。仕事と重なり、「なかなか会合に参加できなくて」と言うが、本格的なカフェの立ち上げ時には、改装などでプロの技を期待されている。



森田壮さん
2期生。最も若い31歳。「松井さん、齊藤さんと話していて共感するものがある」仲間に。手先を動かすことが好きで細かい作業のものが得意。発表会では無店舗の出張カフェ「趣味D.O場(ドゥバ)」を提案。川島商店街でデコ(左の写真)やソーパークーピングなどの教室を開く。「将来は固定の店舗を持ちたい」。



合同発表会で披露したプランのレジュメ

◆コンセプト・他にはない特徴

「時間割カフェとは?」
(コンセプト)

- × カフェを飲食を提供する場
- みんなのやりたい事ができる。学べる、交流できる。新しいつながりが生まれる場所。

【他にはない特徴】

- ① 学校の時間割のようにコマにわけること、1つのスペースを有効的に使える。
- ② 曜日・夕方・夜や曜日別に活動を行って、様々な世代やコースに合わせた活動ができる。
- ③ 活動したい人が、主役(講師やスタッフ)になって活躍することができる。

実は、小宮山さんは、中野区弥生町の川島商店街振興組合の副理事長。2階建ての同組合事務所「コスモ会館」の1階は無料休憩所で、福引やお祭りなどの行事の時に外は有効に使われていなかった。うまく活用できる事業者を探していた。小宮山さんは「コミュニティカフェを運営する人に出会えば」という目的で、講座を受講しに来た。

話を聞いた9人には、願ってもないことだ。早速、現地を見に行き、提案に乗ること。川島商店街は、地下鉄丸ノ内線の中野新橋駅から徒歩7〜8分。住宅地に約150店が連なる商店街だ。

小宮山さんは、ベビー用品・子供服のりサイクルショップ「思い出洋品店」と子供写真専門スタジオ「思い出写真館」の店主だ。マンションの1階で7年前に開業した。同商店街では、月末の日曜日の朝8時から朝市を開いており「てたて」は1月から

参加することに。3月31日の朝市では、齊藤さんや対馬さんたちが「てたて焼き」を作り、ひとつ100円で販売した。

メンバーは年末から会議を重ね、コスモ会館での4月からの活動計画が出来上がった(別表)。「時間割カフェ」が現実のものとなり、各人の担当も決まった。

☆☆☆

店舗を使う常設のカフェの計画も引き続き検討中だ。大村さんは「いざ野方での立ち上げを実現させたい」と意欲満々。また一方で、店舗付き住宅の物件探しを不動産会社に依頼している。対馬さんは「1階をカフェにして、2、3階に住み込む。何人かで一緒に移り、シェアハウスにした。将来を見据えると、頼れる友人との共同生活がとて面白いと思う」と目を輝かす。齊藤さんも店舗付き住宅を仲間とともに見に行き、夫と相談したこともある。

4月の活動予定			
日	時	内容	担当者
20日⊕	13:00~	ソーパークーピング&デコシールづくり	森田
21日⊕	13:00~	はじめての中国語	大村
	16:00~	コーラス	安田
24日⊗	9:00~	若返り体操	松井
27日⊕	13:00~	ソーパークーピング&デコシールづくり	森田
28日⊕	8:00~	朝市	齊藤
	14:00~	落語会	大村

カフェから住まいまで、暮らし全体を共に考える仲間がそろった。これまで胸の奥に抱いていた様々な夢プランが、共鳴者を得て、あつという間に花開こうとしている。

実施主体は「協議体チーム中野」 NPO、中野区、社協、WACなど 7団体で構成



協議体チーム中野

- ① 中野区
地域支えあい推進室
- ② 公益社団法人
長寿社会文化協会(WAC)
- ③ 社会福祉法人
中野区社会福祉協議会
- ④ NPO法人
中野の和
- ⑤ NPO法人
カサ デオリバ
- ⑥ NPO法人
障害者の就労を進める会 そら
- ⑦ 任意団体
ドロップインほっとほっと

- ・コミュニティカフェ開設講座
- ・コミュニティカフェ研究会
- ・設立・運営支援(個別相談)

支援

コミュニティカフェを開きたいNPO等

カフェ全国連絡会を立ち上げて、毎年、東京で全国交流会を開催した。こうした活動実績があるところから、「協議体チーム中野」の代表はWACの常務理事の浅川澄一さんが就任し、事務局をWACが担うことになった。

7団体のうち中野区と中野区社会福祉協議会のほかは、既に、中野区内で高齢者ケアや障害者支援、子育て活動などに積極的に取り組んでいて、コミュニティカフェの先導者となるようなNPO法人などが集まった。その7団体は以下の通りで、各団体から「チーム中野」へ担当者が集い、事業を担った。

① 中野区

NPOなど地域活動を受け持つ地域支えあい推進室地域活動推進担当が主管。担当者は、地域活動推進担当係長の木幡剛さんと同担当の勝沼早苗さん。

② 社会福祉法人中野区社会福祉協議会

地域交流拠点として「まちなかサロン」20カ所に対して、助成金を出すなど立ち上げの支援をしている。乳幼児親子から高齢者などが気軽に

に集える憩いの場である。開くのは1〜4回。担当はボランティアセンター課長の松本洋子さん。

③ NPO法人「中野の和」(中村洋一理事長)

介護保険法に基づく認知症高齢者のグループホーム「コル・テンポ薬師の家」を運営する傍ら、まちなかサロン「薬師のみちくさ」も手掛けている。担当はホーム長の大畑きぬ代さん。

④ NPO法人「カサデオリバ」

(オリブの家、村松いづみ理事長)
障害者就労継続支援B型作業所のほか、障害者の通所訓練の一環として、愛犬を連れて寄れるドッグ・カフェを運営している。有機野菜やリサイクル品、お預かり商品の販売も。担当は村松いづみ理事長。

⑤ NPO法人「障害者の就労を進める会そら」

(中川弥生子理事長)
酵素玄米ご飯と有機野菜を使い、ヘルシーランチを提供する「キッチンそら」を運営。コミュニティレストランとして障害者の就労の場でもある。アレルギー対策離乳食講座など食育に関わる活動にも取り組む。担当は中川弥生子理事長。

⑥ 任意団体「ドロップインほっとほっと」

(能津恵子代表)
親子で遊べるコミュニケーションの場を開き、乳幼児親子対象の「子育て支援講座」も持っている。担当は能津恵子代表。

⑦ 公益社団法人「長寿社会文化協会(WAC)」

(藤井威会長)
高齢者疑似体験や認知症疑似体験を駆使した

高齢者ケアの研修、趣味やスポーツ、文化交流、子育て支援など多くの分野で地域活動を支援している。担当は浅川澄一常務理事と昆布山良則さん。

東京都からの助成金は546万円

コミュニティカフェの開設支援事業は、内閣府の「新しい公共支援事業(新しい公共の場づくりのためのモデル事業)」のひとつとして実施されたものである。

「新しい公共」は、これまで行政がほぼ独占してきた領域をNPOなど多くの市民事業者にも広げていこうというもので、民主党政権となった鳩山内閣の時から提唱されている。地域の課題解決に向けた先進的取り組みを支援するものだ。内閣府に「新しい公共」推進会議が2010年に設置され、各種の支援事業は2011年度に始まった。国から交付金を得た都道府県が主導し、地域の様々な団体が応募した。

「一般枠」と「NPO等支援重点化枠」、「被災地支援枠」の3区分がある。東京都の過去2回では「一般枠」で21事業、「NPO等支援重点化枠」で3事業、「震災支援枠」で5事業に助成金が交付された。

3回目はNPO等支援重点化枠だけだった。協議体チーム中野は「コミュニティカフェ開設支援事業」で546万円を申請し、認定された。

このモデル事業は、公益法人や非営利組織などが自治体と協働するモデル作りであり、それによって「新しい公共」の拡大を図ることがうたわれている。そこで、中野区を含めた7団体で「協議体チーム中野」を構成した。